

KL1116

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書はATENジャパン株式会社において、KL1116 取り扱いの便宜を図るため、製品同梱 英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、製品同梱の英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術サポート部

TEL :03-5323-7178

MAIL :support@atenjapan.jp

2008年6月17日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く変更されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピュータのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではありません。

キーボード、マウス、モニタ、コンピュータ等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応となりますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 納品日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障または破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証のお申し込み手順】

弊社の製品保証規定に従い保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) **不具合の確認**……製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口へ連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) **本規定に基づく製品保証のご依頼**……(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『製品納品日が証明できる書類』を用意して、製品を購入された販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) **製品の発送**……不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品／液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～1 ヶ月	初期不良、新品交換※1
	～3 年	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～1 ヶ月	初期不良、新品交換※1
	～2 年	無償修理
	2 年以上	有償修理※2

※1…製品納品日から30 日以内に弊社または販売店に申告を頂いた不具合を初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途お問い合わせください。

※ケーブル類、電源アダプタ、その他レールキット等のアクセサリ類はDOA・初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL(生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。

※本保証期間は2007年9月1日以降にご購入された場合に適用されます。それ以前に購入された製品については、1年間の保証となります。

【補足】

- ・本規定はATEN/ALTUSEN ブランド製品に限り適用します。
- ・ケーブル類・電源アダプタは初期不良対応に準じます。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。
- ・製品保証を受けるにあたり、製品の納品日が証明できない場合は製品のシリアルナンバーから判別した製造日を起算日とします。ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、全て有償修理とさせていただきます。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業推進部 TEL:03-5323-7170 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術サポート部 TEL :03-5323-7178 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

FCC	9
RoHS	9
安全にお使い頂くために	10
一般的な注意	10
ラックへのマウント	12
同梱品	13
本マニュアルについて	14
マニュアル表記について	15
第1章 はじめに	16
製品概要	16
特長	18
必要システム構成	19
コンピュータ	19
ケーブル	19
製品各部名称	21
フロントパネル	21
リアパネル	24
第2章 ハードウェアセットアップ	25
セットアップの前に	25
標準ラックマウントキット	25
単体使用	29
接続図	30
デイジーチェーン接続	31
接続図	33
第3章 操作方法	34
コンソールを開く	34
LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルを個別に開く場合	35
LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルを同時に開く場合	37
操作上の注意事項	38
コンソールを閉じる	39
LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルを個別に閉じる場合	39
LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルを同時に閉じる場合	41
LCD の OSD 設定	42

LCD ボタン	42
LCD 調整値の設定	43
コンソールポートの選択	44
手動選択	44
ホットプラグ	45
ステーション位置の変更	45
コンピュータポートのホットプラグ	45
シャットダウンと再起動	46
ポート ID の割り振り	47
第 4 章 OSD 操作	48
OSD 概要	48
OSD ナビゲーション	50
OSD メイン画面 項目	50
OSD 機能	51
F1 GOTO	51
F2 LIST	52
F3 SET	53
F4 ADM	55
F5 SKP	59
F6 BRC	60
F7 SCAN	61
F8 LOUT	62
第 5 章 ホットキー操作	63
ホットキーによるポートアクセス	63
ホットキーモードの起動	63
アクティブポートの選択	64
オートスキャン機能	65
スキップモード	67
ホットキーによるビープ音設定	69
ホットキー一覧表	70
第 6 章 ファームウェアアップグレードユーティリティ	71
ファームウェアアップグレードをはじめる前に	71
アップグレード作業	73
アップグレード成功	76
アップグレード失敗	76
ファームウェアアップグレードリカバリー	77

付録.....	78
KL1116・KH0116 接続対応表	78
OSD の工場出荷時における初期設定一覧.....	79
ログイン情報の削除	80
イージーセットアップラックマウントキット.....	81
ホットキー・OSD 専用起動キー	85
製品仕様.....	86
トラブルシューティング	89

FCC

本製品は FCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。

この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。

また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

安全にお使い頂くために

一般的な注意

- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面（台車、簡易的なスタンドやテーブル等）を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために3ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者に問い合わせ、適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置（UPS）をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。

- ◆ ホットプラグ可能な電源に抜き差しする場合は、以下の注意事項を守ってください。
 - 電源ケーブルを電源に接続する前に電源を取り付けてください。
 - 電源を取り外す前に電源ケーブルを抜いてください。
 - 電源元が複数ある場合、電源からすべての電源ケーブルを抜くことでシステムから電源を取り外すようにしてください。
- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、何かありましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 技術サポートの修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。

ラックへのマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業前にフロントとサイドのスタビライザーをシングルラックに取り付けるか、多機能ラックをフロントスタビライザーに取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ デバイスレールのリリース用ラッチを押してラックからデバイスの出し入れをする際にはスライドレールに指を挟まないようご注意ください。
- ◆ デバイスがラックに挿入されたら、注意してレールをロックする位置までスライドしてください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

同梱品

KL1116 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ KL1116 Hideaway LCD KVM スイッチ（標準ラックマウントキット取付済み） ×1
- ◆ カスタム KVM ケーブル ×2
- ◆ ファームウェアアップグレードケーブル ×1
- ◆ 電源ケーブルアダプタ ×1
- ◆ 英語版ユーザーマニュアル ×1
- ◆ 多言語版クイックスタートガイド ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用方法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、KL1116 に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

第1章 はじめに:KL1116 を紹介します。特長および機能の概要および製品各部名称について説明しています。

第2章 ハードウェアセットアップ:基本的なハードウェアセットアップの手順から、32 スイッチのデジチェーン接続の方法まで、KL1116 セットアップについて説明しています。

第3章 操作方法:KL1116 の機能概要および操作方法について説明しています。

第4章 OSD 操作:KL1116 の OSD (オンスクリーンディスプレイ) の詳細内容、および操作方法について説明しています。

第5章 ホットキー操作:KL1116 のホットキー操作に関する機能概要、および操作手順について説明しています。

第6章 ファームウェアアップグレードユーティリティ:お使いの KL1116 のファームウェアを最新のバージョンにアップグレードする方法について説明します。

付録 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明しています。

マニュアル表記について

[]

入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。またホットキー操作のようにキーを連続して押す場合は、[Ctrl] , [Alt] , [Shift]のようにコンマ(,)を挟んで表記してあります。

1.

番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

◆

◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。

→

矢印は操作の手順を示します。例えば Start → Run はスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

第1章 はじめに

製品概要

KL1116 は1組の KVM コンソール(キーボード、モニタ、マウス)から複数のコンピュータにアクセスすることができる製品です。Master View の登場以前は、1つのコンソールから複数のコンピュータの設定を行うには、複雑でコストのかかるネットワークシステムを使用せざるを得ませんでしたが、KL1116 の登場により低コストでのセットアップが実現可能になり、また、複数台のコンピュータに簡単にアクセスできるようになりました。

1台の KL1116 で最大 16 台のコンピュータを操作することができます。また、最大で 31 台のダイジーチェーン接続が可能ですので、1組のキーボード/モニタ/マウスで最大 512 台のコンピュータを操作することもできます。

KL1116 はキーボード/LCD モニタ/タッチパッドを統合し、ラックに格納することで、KVM スイッチの省スペース化や KVM スイッチを使った作業の効率化の実現をもたらしました。LCD モニタは上部パネル内に、またキーボード/タッチパッドは下部パネルにそれぞれ組み込まれており、それらをラックから引き出して使うことを目的に設計されております。上部の LCD パネルを開ければすぐにお使いいただくことができ、また、使い終わったら LCD パネルを戻して奥にスライドさせることで簡単に収納できます。LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルはそれぞれ独立してスライドすることができ、例えば、キーボード/タッチパッドパネルをラックから引き出すことなくサーバーをモニタリングすることも可能です。

さらに便利な特長として、1U ラックへの取り付けや作業を簡単にするために、機器の高さを1Uラックより若干低めの構造にし、上下にゆとりを持たせております。また、通常の25ピンコネクタではなく、高密度 15 ピンコネクタを使用しております。この省スペース設計によって 16 ポートの KVM スイッチを1Uラックに収納することが可能になりました。この他の特長として、KVM セクションをスイッチセクションから離れた場所に取り付けてお使いいただくことも可能です。

お使いの KL1116 は付属のファームウェアアップグレードユーティリティによって快適にご使用いただけます。弊社 Web サイトからファームウェアのアップデートファイルをダウンロードし、ユーティリティを使用してアップグレードを実行することで、常に最新の機能をご利用いただけます。

セットアップはケーブルを該当ポートに接続するだけですので、簡単で時間もかかりません。KL1116 はキーボードの入力信号を直接受信しますので、ソフトウェアを設定する必要もございません。また、複雑なセットアップ作業に煩わされることや、互換性の問題に悩まされることもございません。

KL1116 に接続されているコンピュータには、メニュー形式で操作可能な OSD (オンスクリーンディスプレイ) メニュー、もしくはキーボードを使ったホットキー入力のいずれかの方法によって簡単にアクセスすることができます。また、便利なオートスキャン機能によって、KL1116 に接続されたすべてのコンピュータの自動スキャンやモニタリングも可能になります。

セットアップに割かれる時間の短縮と費用の削減に関して KL1116 の右に出る製品はないと自負しております。Hideaway コンソール搭載の KL1116 の導入によって、

- 1) マシンごとにキーボード、モニタ、マウスを購入する費用の削減
- 2) 追加コンポーネントの占有するスペースの縮小
- 3) 標準的な KVM スイッチ導入時に見られるキーボード、モニタ、マウスの占有スペースの削減
- 4) 光熱費の削減
- 5) コンピュータのセットアップ作業時に発生する不自由の解消や無駄な労力の削減が可能になります。

特長

- ◆ 17 インチ LCD モニタ搭載一体型 16 ポート KVM コンソール
- ◆ 1Uラックの高さに余裕を持たせた Hideaway 収納 – 1U のシステムラックで上下に空きスペースができることにより、スムーズな操作が可能
- ◆ LCD モニタ部分はキーボード/タッチパッドの部分から独立してスライドすることが可能
- ◆ 省スペース化 – 2 つのコンソール (操作バス 1) で最大 16 台のコンピュータを管理することが可能
- ◆ デイジーチェーン接続による最大 31 台の KVM スイッチの連結が可能になることにより、KL1116 から最大 512 台のマシンを管理することが可能
- ◆ セットアップソフトウェア不要 – マウスで操作できるオンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューとホットキーによって簡単にポートを選択することが可能
- ◆ ユーザーが選択したコンピュータに対するオートスキャン機能
- ◆ ブロードキャスト機能対応 – 接続された全コンピュータに対してキーボードからのコマンドを同時に送信することが可能
- ◆ ホットプラグスイッチの電源を切ることなくコンピュータの取り付けや取り外しをすることが可能
- ◆ 2レベルパスワードセキュリティ – 権限のあるユーザーのみコンピュータのモニタリングや操作が可能 (最大4名のユーザーと1名の管理者を個別に作成することが可能)
- ◆ LCD モニタの DDC エミュレーション – 各コンピュータのビデオ設定をモニタに最適な出力に自動調整
- ◆ ファームウェアのアップグレードが可能
- ◆ 各種 OS (Windows、Linux、Unix、Netware、AIX(RS6000)、DOS6.2 以降) に対応

必要システム構成

コンピュータ

本製品の LCD モニタの最大解像度は 1,024×768(15 インチ)または 1,280×1,024(17 インチ)です。お使いのコンピュータの解像度が、この LCD モニタの最大解像度を超えないように設定してください。

ケーブル

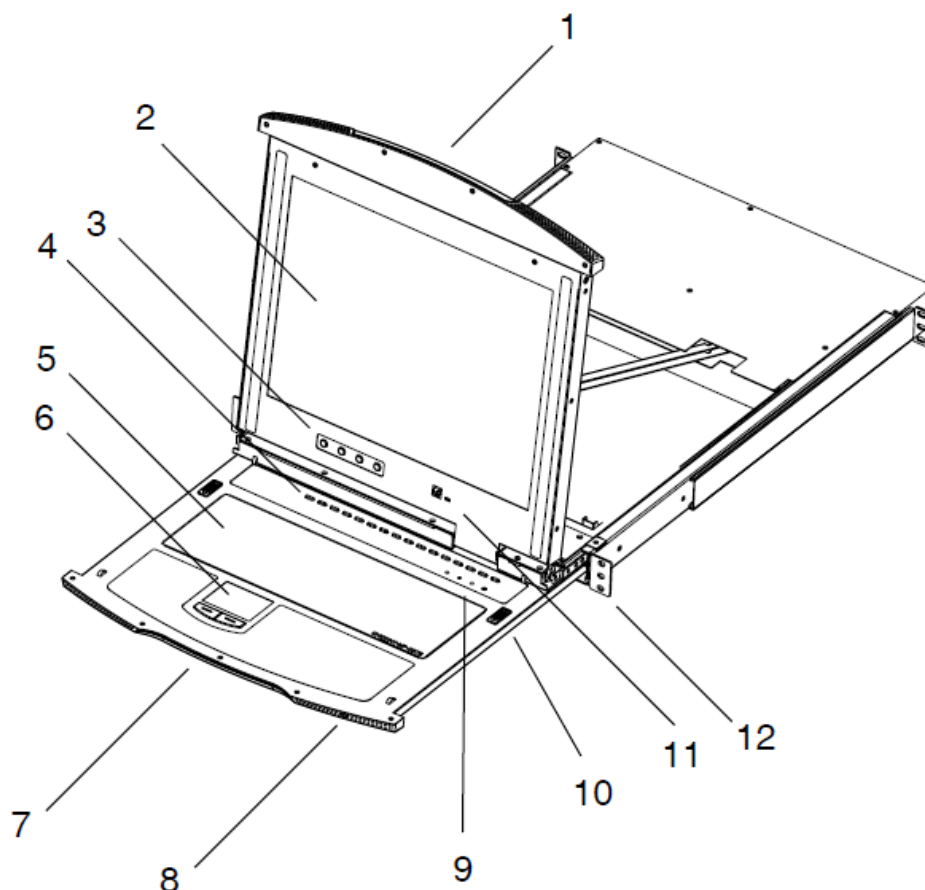
KL1116 の推奨条件に満たないケーブルは接続されている機器の故障の原因になったり、正しい処理ができなくなったりするおそれがあります。信号の整合性を保つため、また表示画面のレイアウトを簡素化させるためにも高品質の CS カスタムケーブルセットのご使用を強くお勧めします。

製品画像	機能	型番 (長さ)	
	デジチェーン専用ケーブル		
	スイッチ側	DB-25 オス	2L-1700(0.6m) 2L-1701(1.8m) 2L-1703(3m)
	コンピュータ側	DB-25 メス	2L-1705(5 m) 2L-1715(15m)
	PS/2 KVM ケーブル		
	スイッチ側	SPHD × 1	2L-5201P(1.2m) 2L-5202P(1.8m)
	コンピュータ側	キーボード用ミニ DIN6 ピン オス	2L-5203P(3m)
		マウス用ミニ DIN6 ピン オス モニタ用 D-sub15 ピン オス	2L-5206P(6m) 2L-5210P(10m)
	PS/2 KVM ケーブル (製品同梱ケーブル)		
	スイッチ側	SPHD × 1	2L-5702P(1.8m)
	コンピュータ側	キーボード用ミニ DIN6 ピン オス	
		マウス用ミニ DIN6 ピン オス モニタ用 D-sub15 ピン オス	
	USB KVM ケーブル		
	スイッチ側	SPHD × 1	2L-5202UP (1.8m) 2L-5203UP (3m)
	コンピュータ側	USB タイプ A オス	
		モニタ用 D-sub15 ピン オス	2L-5206UP (6m)

-
- 注意:**
1. KL1116 はシリアルマウスには対応していないため、シリアル—PS/2 変換アダプタはご利用になれません。
 2. KL1116 はセカンドコンソールの接続に対応しております。もし、セカンドコンソールを利用し、スイッチとの距離を離したい場合は、各種ケーブル長を取り揃えた延長ケーブルをご利用いただけます。詳細はお求めの代理店までお問い合わせください。
-

製品各部名称

フロントパネル



No.	名称	説明
1	LCD パネル側ハンドル	LCD パネルの引き出し・収納作業を行うときに使用します。取り扱い方法は本表の項目7およびp.34をご参照ください。
2	LCD パネル	LCD モジュールを引き出し、上部パネルを開くことでLCD モニタをお使いいただけます。
3	LCD コントロール	表示画面の位置や LCD ディスプレイの表示設定を行うボタンが配置されています。詳細については p.42 をご参照ください。

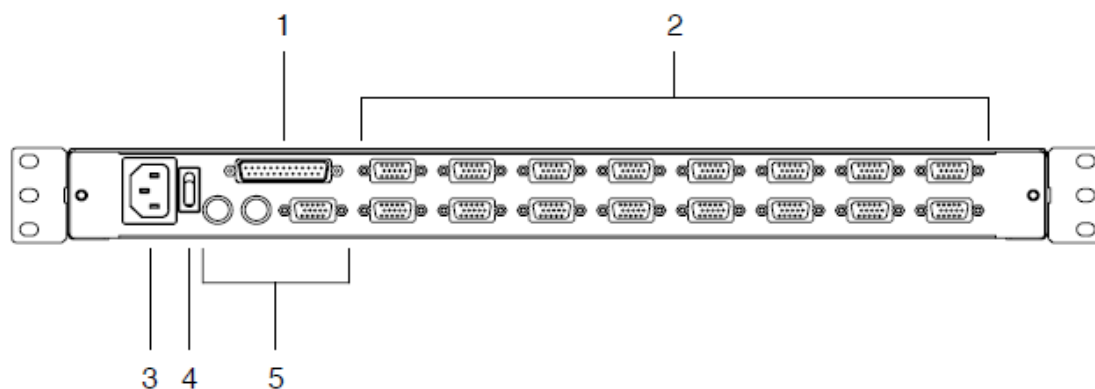
(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
4	ポートスイッチ・ポートLED	<p>スイッチを押すと、対応するポートに接続されたコンピュータを選択することができます。詳細については p.44 をご参照ください。</p> <p>2つのポート LED はポートスイッチ部分に配置されており、左側の LED はオンラインであることを、また、右側の LED は選択されたポートであることをそれぞれ示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 緑色の LED ランプは該当ポートに接続されたコンピュータの電源が入っており、稼働中であることを表しています。 ◆ オレンジ色の選択中 LED ランプは、該当ポートに接続されたコンピュータがKVMスイッチ上で選択されていることを表しています。通常、このLEDランプは点灯したままですが、オートスキャン機能によってポートにアクセスしている場合は点滅します。
5	キーボード	
6	タッチパッド	
7	キーボードパネル側ハンドル	キーボードパネルの引き出し・収納作業を行うときに使用します。コンソールの引き出し・収納の詳細については本表の項目1および p.34 をご参照ください。
8	電源 LED	ブルーに点灯し、電源がオンになっていることを示します。
9	ロック LED およびリセットスイッチ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Num Lock、Caps Lock、Scroll Lock の各 LED はここに配置されています。 ◆ リセットスイッチはロック LED の右側にあります。機器のリセットを行う場合は、このピンホールスイッチを細く尖ったもので押してください。
10	リリースキャッチ	LCD パネル収納時、両端にあるキャッチを操作します。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
11	ファームウェアアップグレード用部分	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ファームウェアアップグレードポート:ファームウェアアップグレードのデータを管理者のコンピュータからKL1116に転送する際に使用するケーブルをこのRJ-11 コネクタに接続します。 ◆ ファームウェアアップグレードスイッチ:通常の操作時には、このスイッチは「NORMAL」に合わせてある必要があります。(ファームウェアアップグレードの詳細に関しては p.71 をご参照ください。)
12	ラックマウントタブ	ラックへの搭載時、ネジ止めを行います。詳細は p.81 のラックマウント方法をご参照ください。

リアパネル



No.	名称	説明
1	デージーチェーン接続用ポート	別のKL1116とデージーチェーン接続をする場合にケーブルをここに接続します。
2	コンピュータポート部分	<p>コンピュータに接続されているケーブルをここに差し込みます。</p> <p>注意: この黄色い SPHD コネクタは、ATEN KVM ケーブル専用設計されたものです。(ケーブルの詳細については p.19 参照) モニタの接続に使用する D-Sub 15 ピンコネクタなどを誤って接続しないよう、ご注意ください。</p>
3	電源ソケット	IEC 60320 C14 3 極ソケットです。AC 電源コードを接続してください。
4	電源スイッチ	電源のオン/オフを行うロッカースイッチです。
5	セカンドコンソール	KL1116 は KVM スイッチ一体型ドローとしての用途以外としても柔軟にお使いいただけるように、セカンドコンソールに対応しています。必要であれば、セカンドコンソール用のキーボード/モニター/マウスをこれらのポートにそれぞれ接続することができます。

第2章 ハードウェアセットアップ

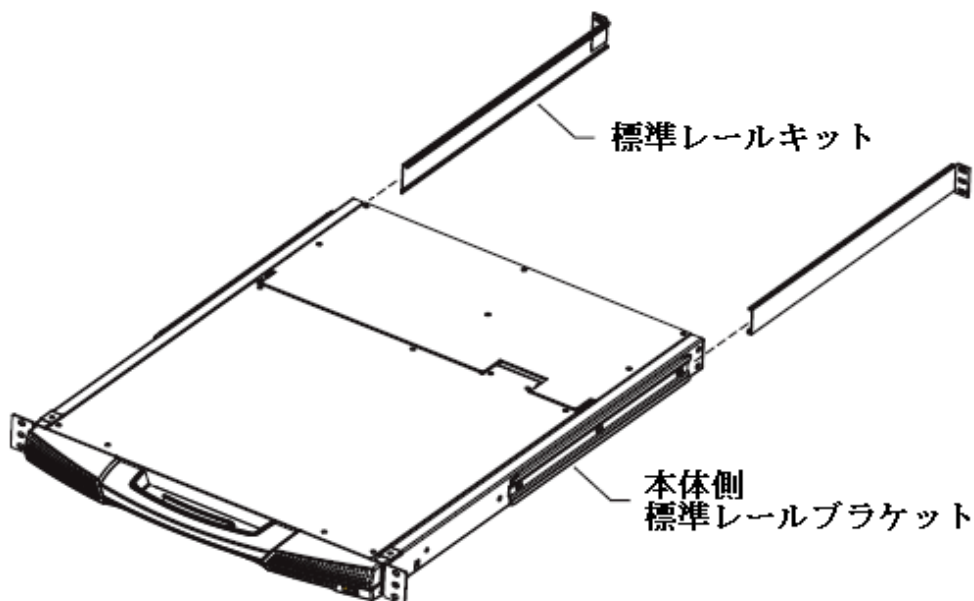
セットアップの前に



1. 機器の設置に際し重要な情報を p.10 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピュータの電源ケーブルも抜いてください。

標準ラックマウントキット

KL1116 は、本体に標準ラックマウントキットが取り付けられた状態で出荷されます。標準ラックマウントキットを使用してマウンティングが可能なラック支柱奥行きは、42~77cmです。

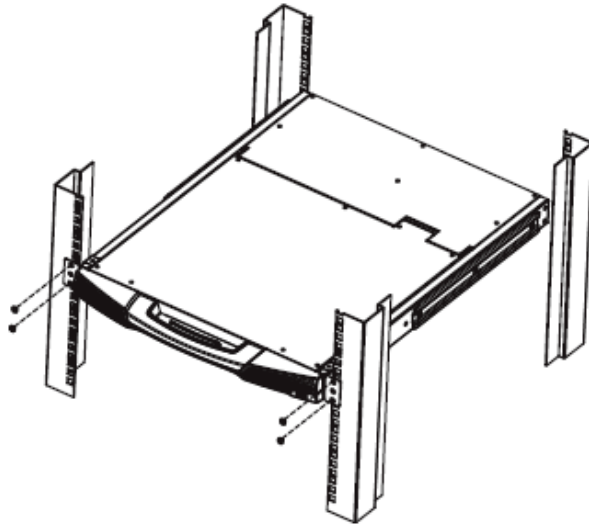


注意: 製品のラックへのマウント作業は二人以上で行うようにしてください。製品を保持する作業者とネジ止めを行う作業者で、複数で行ってください。

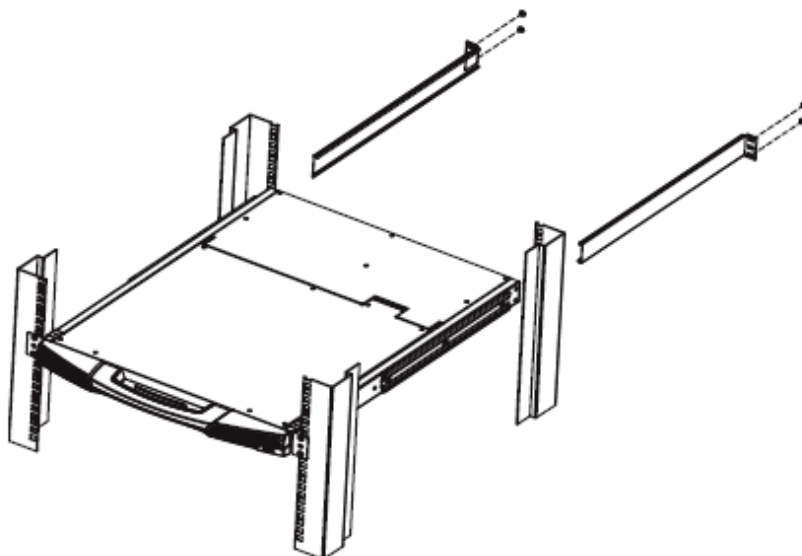
オプションのイージーセットアップラックマウントキットが製品に同梱されています。イージーセットアップラックマウントキットの取付方法は p.81 をご参照ください。

標準ラックマウントキットでのラックへの取付は、下記の手順で行ってください。

1. 製品のラックへのマウント作業は二人以上で行うようにしてください。製品を保持する作業者とネジ止めを行う作業者で、複数で行ってください。最初にフロント側タブのネジ止めを行います。



2. 製品を取付位置で保持したまま、他の作業者は標準レールキットを製品リア側から差し込み、取付長を調整して、ネジ止めしてください。



3. 最後に全てのネジがしっかりと固定されていることを確認してください。

-
- 注意:**
1. ラックへの取付に使用するネジおよびケーシナットは製品に同梱されていません。お手数ですが、ラックに対応したネジとケーシナットをご用意ください。
 2. 通気を確保するために両サイドに最低 5.1cm の空間を、また、電源コードやケーブル用に、リア側には 12.7cm の空間をそれぞれ設けてください。
-

単体使用

スイッチを1台で使用する場合、お使いの KL1116 を別の機器とデイジーチェーン接続する必要はありません。次のページ以降の接続図を参考にし、セットアップを以下の手順で行ってください。

1. セカンドコンソール用のキーボード、モニタ、マウスの各コネクタをリアパネルの該当コンソールポートにそれぞれ接続します。ポートはわかりやすくアイコンやカラーリングが施されていますので、それを参考に接続してください。

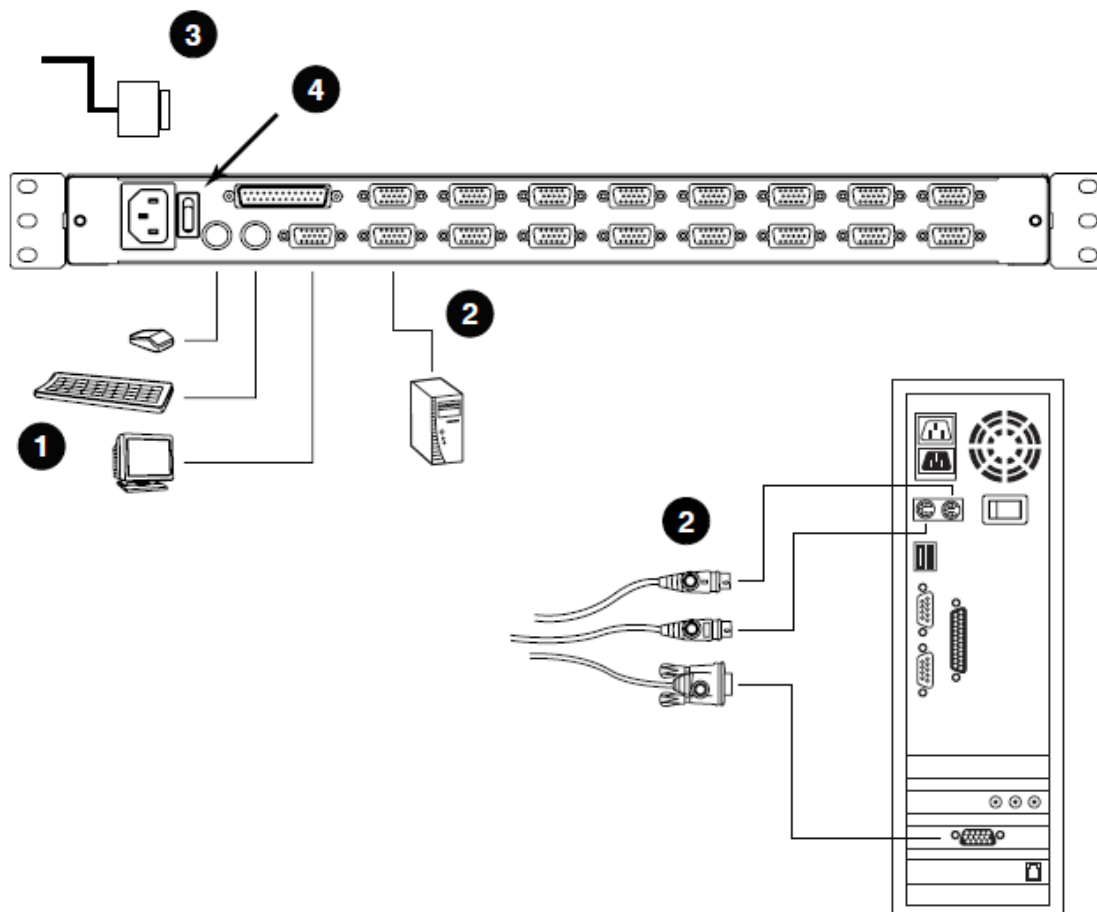
注意: この作業はセカンドコンソールをお使いの場合のみ必須です。必要に応じて行ってください。

2. コンピュータの接続には KVM ケーブルセット(詳細は p.19 の「ケーブル」の項目をご覧ください)をお使いください。KVM ケーブルのキーボード、モニタ、マウスの各コネクタを、KVM スイッチのコンソール部分のそれぞれ対応するポートに接続します。

注意: MasterView を使用する場合のみデイジーチェーン接続用ポートを使用しますので、このステップでは、このポートは特に使用しません。デイジーチェーン接続については次のセクションで説明します。

3. KL1116 の電源スイッチをオンにしてください。
4. KL1116 の電源が入っていることを確認したら、接続されているコンピュータの電源を入れてください。

接続図



デジチェーン接続

KVM スイッチに接続したいコンピュータの台数が KL1116 のポート数を超える場合でも、最大で 31 台の KVM スイッチ (KH0116) を KL1116 にデジチェーン接続することで対応が可能です。

注意: デジチェーン接続されたスイッチにはコンソールが不要ですので、KL1116 に同じ KL1116 をデジチェーン接続して使用する必要はありません。

KH0116 はラックマウント型 KVM スイッチで、Hideaway コンソールは搭載していませんが、それ以外は KL1116 と同等の機能を備えています。

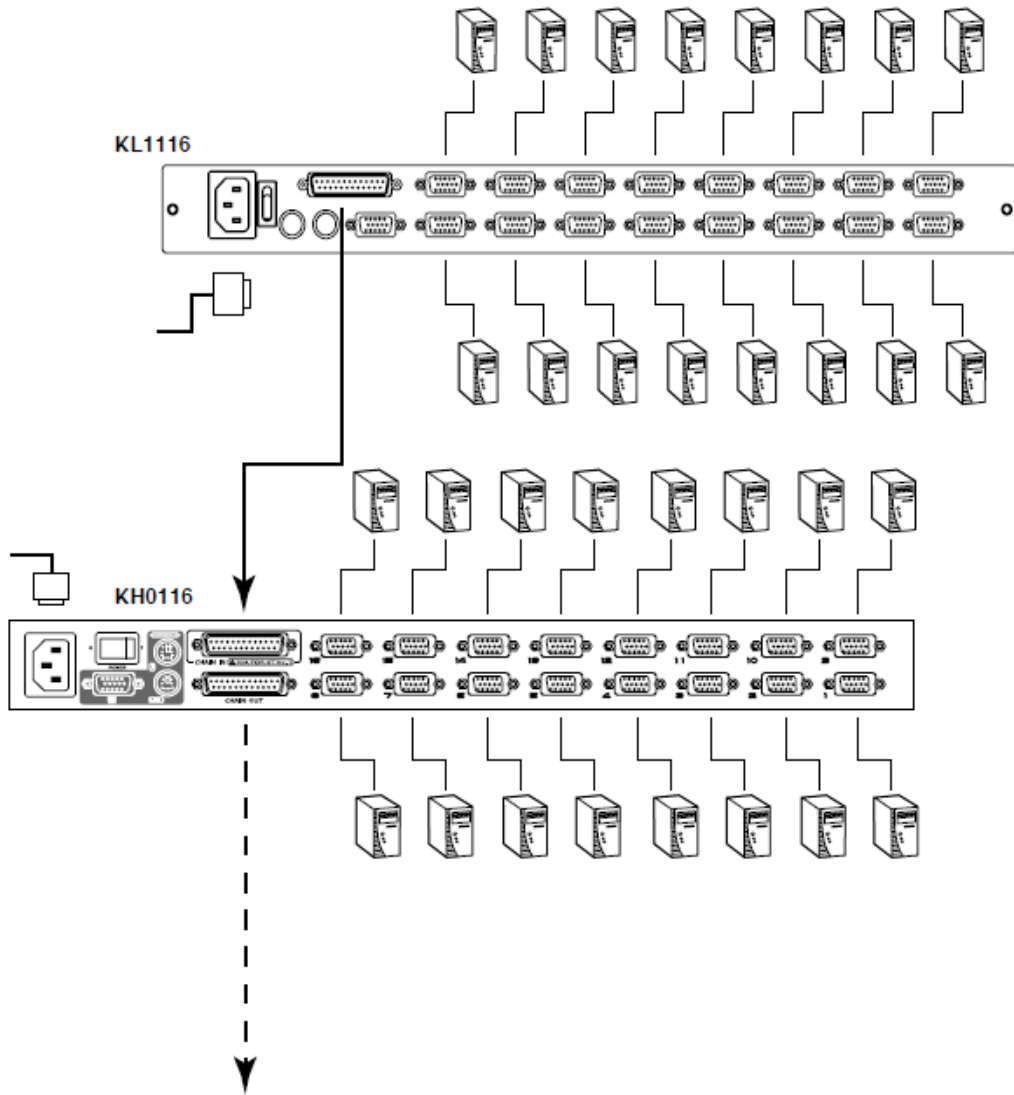
KL1116 からは最大で 512 台のコンピュータを操作することができます。コンソール接続数と KH0116 の必要台数の関連表は p.78 の付録をご参照ください。

デジチェーン接続を設定する場合は p.33 のデジチェーン接続図を参考にし、以下の作業を行ってください。

1. KL1116 に接続されているコンピュータの電源がすべて切っていることを確認してください。
2. デジチェーン専用ケーブル (p.19 の「ケーブル」の欄を参照) で、親機の「Chain Out」ポートと子機の「Chain In」ポートを接続してください。(1 台目の「Chain Out」ポートと 2 台目の「Chain In」ポートに、2 台目の「Chain Out」ポートと 3 台目の「Chain In」ポートに接続するといった要領で接続してください)
3. KVM ケーブルセット (KH0116 ユーザーマニュアルの「ケーブル」の欄を参照) で KL1116 にデジチェーンされた KVM スイッチ上で利用可能なコンピュータポートと、お使いのコンピュータのキーボード、モニタ、マウスの各ポートをそれぞれ接続してください。
4. 他にも KH0116 をデジチェーン接続する場合は、上記の手順を繰り返してください。

5. 下記の手順で、電源を入れてください。
 - a. 1台目のステーション(KL1116)に電源を入れます。
KL1116 がステーション ID を認識するまで数秒ほどお待ちください。
 - b. KL1116 にデイジーチェーン接続された KVM スイッチに順に電源を入れていってください。(2台目のステーションに電源を入れたあとで、3台目のステーションに電源を入れるといったように、ステーション順に電源を入れてください)KH0116 のフロントパネルにはステーション ID を示す LED ランプがついています。(1台目の機器(KL1116)のステーション ID は 01、2段階目の機器(1台目の KH0116)のステーション ID は 02、3段階目の機器のステーション ID は 03 というようにステーション ID が割り振られます)各機器のステーション ID が認識され、フロントパネルに LED 表示されるのを確認してから次のステーションの電源を入れるようにしてください。
 - c. すべてのステーションのステーション ID が確定したら、KH0116 に接続されたコンピュータの電源を入れます。

接続図



第3章 操作方法

コンソールを開く

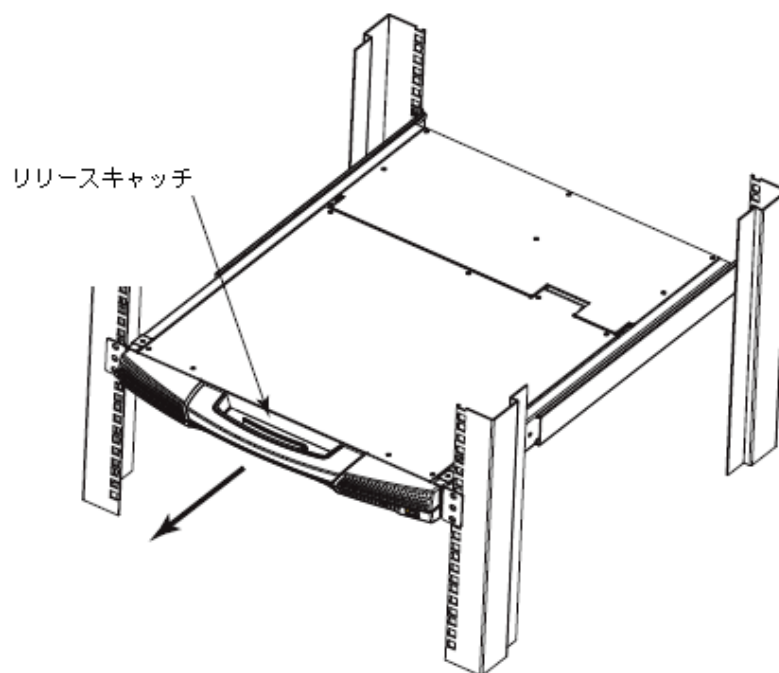
KL1116 コンソールは、上部パネルに取り付けられている LCD ディスプレイ、および下部パネルに取り付けられているキーボード/タッチパッドの2つの部分から構成されています。

LCD ディスプレイ、キーボード/タッチパッドの部分は同時に動かすこともできますし、それぞれ個別に動かすことも可能です。この機能によって、キーボードやタッチパッドが必要でない場合は、キーボード/タッチパッドパネルを収納したまま LCD パネルだけを引き出して使用することができます。

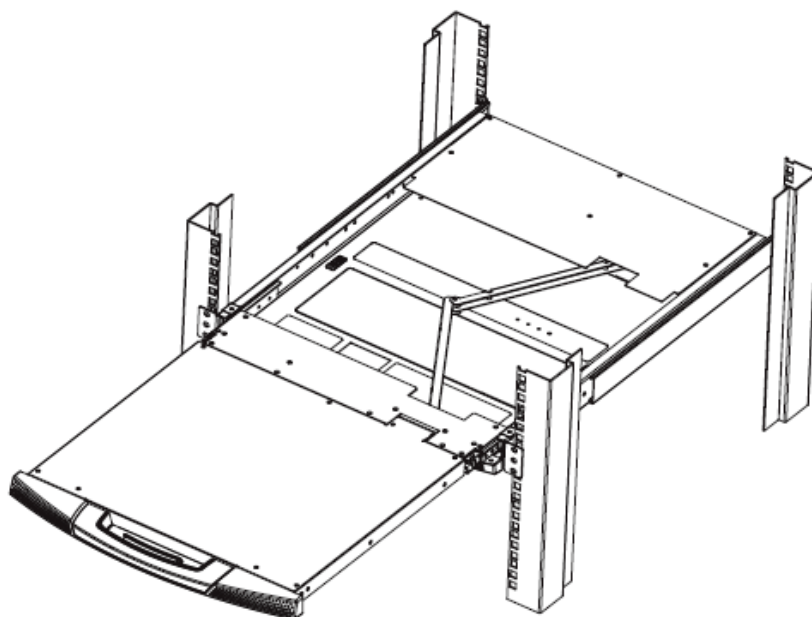
安全にお使いいただくために、内側にロックされているコンソールを引き出してお使いになる際には、フロントパネルに設置されているキャッチを前方向にスライドさせることでロックを解除する必要がありますので、取り扱いにはご注意ください。

LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルを個別に開く場合

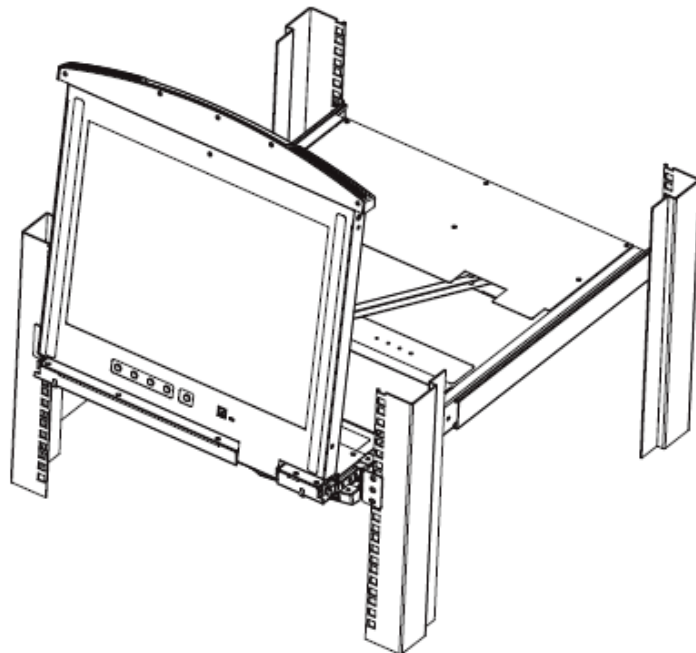
1. リリースキャッチを引っ張って、パネルを手前に引き出します。コンソールのロックが解除されたらリリースキャッチから手を離してください。



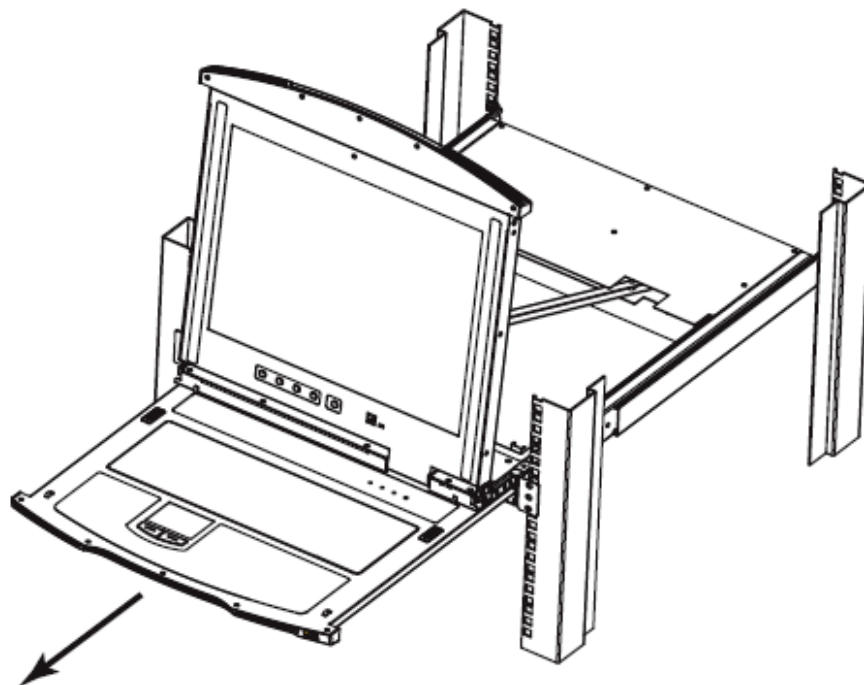
2. 「カチッ」という音がするまで上部パネルを引き出します。



3. モニタ部分が手前にくるように LCD パネルを起こします。



4. 「カチッ」という音がするまでキーボード/タッチパッドパネルを引き出します。



LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルを同時に開く場合

上記の「LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルを個別に開く場合」の内容を参考にしながら、下記の手順で操作してください。

1. フロントパネルのリリースキャッチを中央に向かって引き出して、コンソールのロックを解除し、手前に引き出します。コンソールのロックが解除されたらリリースキャッチから手を離してください。
2. キーボード/タッチパッドパネルを「カチッ」という音がするまで引き出します。
3. LCD パネルを「カチッ」という音がするまで引き出します。
4. LCD パネルを起こして、LCD 画面が手前にくるようにします。

注意: キーボードモジュールの重量超過に関する以下の注意書きを、ご参照ください。

操作上の注意事項



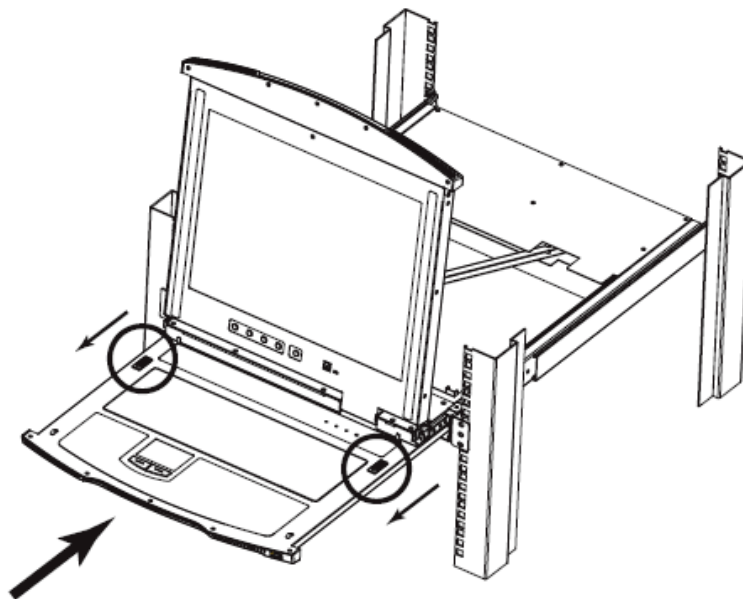
キーボードパネルはある程度の加重に耐えるよう設計されておりますが、安全にお使い頂くため、長時間無理な力がかからないようにご使用ください。

	<p>正しい使用方法</p> <p>手を軽くキーボードに置いて作業する。</p>
	<p>間違った使用方法</p> <ul style="list-style-type: none">◆ キーボードに体重をかけないでください。◆ キーボードに重いものを載せないでください。

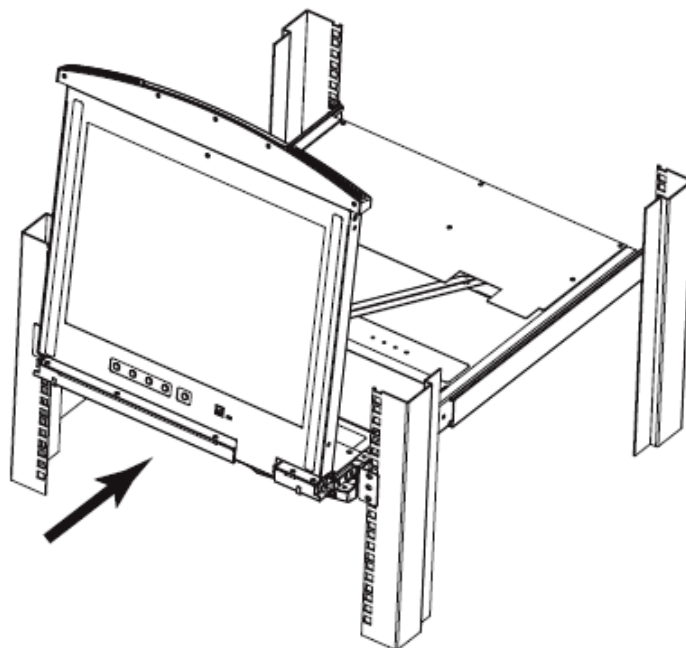
コンソールを閉じる

LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルを個別に閉じる場合

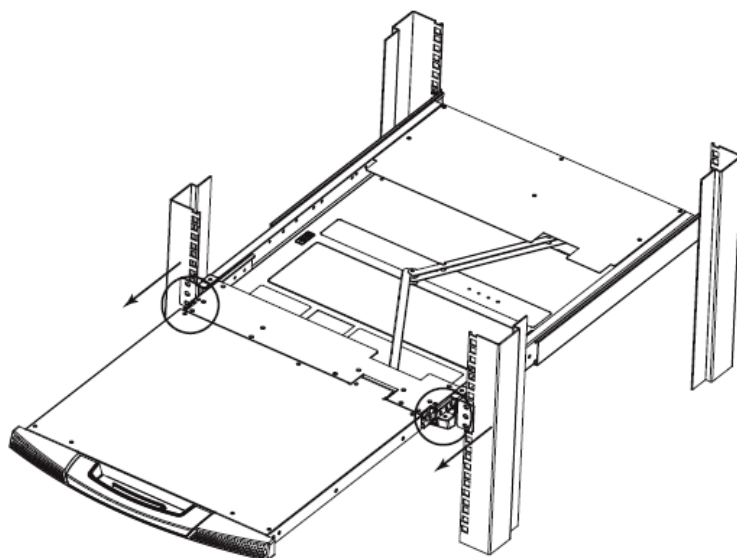
1. キーボードの両側についているリリースキャッチを手前にスライドさせ、キーボードのロックを解除し、奥にスライドさせます。



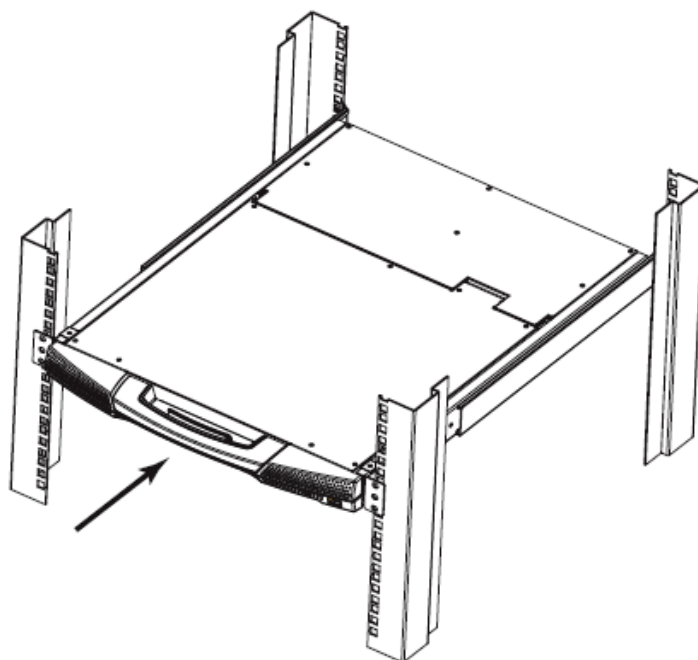
2. キャッチのロックを解除したら、フロントハンドルを使ってキーボード/タッチパッドパネルをラックに格納します。



3. LCD パネルを下に倒し、側面のキャッチを引っ張ってロックを解除します。



4. LCD パネルを奥にスライドさせ、ラックに収納します。



LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルを同時に閉じる場合

1. LCD パネルのディスプレイ部分が下になるように元に戻し、リアキャッチを引っ張って、ドロワー全体のロックを解除します。(p.40 の手順 3 の図をご参照ください。)
2. フロントハンドルを握って「カチッ」という音がするまでドロワーをラックに収納します。(p.40 の手順 4 の図をご参照ください。)
3. キーボード/タッチパッドパネルのリリースキャッチは同パネルの下部に取り付けられています。(LCD パネル側に注意書きが添えられています)キーボード/タッチパッドパネルの下にあるキャッチを手前に引き出し、キーボード/タッチパッドパネルを奥にスライドさせてください。
4. ドロワーのロックを解除し、「カチッ」という音がするまでフロントハンドルを使って奥にスライドさせてください。

LCD の OSD 設定

LCD ボタン

LCD スクリーンの OSD によって、LCD ディスプレイの設定を行うことができます。設定には下記の表にある4つのボタンを使用します。

ボタン名称	機能
MENU	<ul style="list-style-type: none">◆ OSD メニュー機能を操作していない場合にこのボタンを押すと OSD メインメニューが表示されます。◆ ナビゲーションボタン(▶ ▲ または ◀ ▼)で OSD メニュー項目の選択をしている際にこのボタンを押すと、各値の調整画面が表示されます。
	このボタンでメニューの右または上を選択します。また、画面調整時に使用すると、調整値を増やすことができます。
	このボタンでメニューの左または下を選択します。また、画面調整時に使用すると、調整値を減らすことができます。
EXIT	<ul style="list-style-type: none">◆ OSD メニュー機能を使用していない場合にこのボタンを押すと OSD 側で最適な LCD の設定を自動検出し、設定を行います。◆ OSD メニュー機能を使用している場合にこのボタンを押すと、現在のメニューから前のメニューに戻ります。設定が完了した場合は、このボタンで調整メニューを終了します。◆ メインメニューを操作している場合にこのボタンを押すと OSD メニュー機能を終了します。

LCD 調整値の設定

下記の表は LCD スクリーンの OSD 調整の設定に関する説明です。

設定	説明
Brightness (明るさ)	スクリーンイメージのバックグラウンドの黒色レベルを調整します。
Contrast (コントラスト)	スクリーンイメージのフォアグラウンドの白色レベルを調整します。
Phase (フェーズ)	画面にチラツキ、ノイズが出ている場合には、フェーズを調整してください。
Clock (クロック)	画面縦方向の波(モアレ)が生じている場合には、クロックを調整してください。
H-Position (水平位置)	LCD パネル内の表示部分の横方向の位置を設定します。 (表示画面を左右の方向に動かして調整します)
V-Position (垂直位置)	LCD パネル内の表示部分の縦方向の位置を設定します。 (表示画面を上下の方向に動かして調整します)
Color Temperature (色温度)	表示画面の色味を調整します。赤みの度合いやカラーバランスなどを調整することができます。「Adjust Color」メニューを選択すると、サブメニューでさらに細かく RGB 値を調整することができます。
Language (言語)	OSD メニューに表示される言語を選択します。
OSD Duration (OSD 表示時間)	OSD 画面が LCD の画面上に表示される時間の設定を行います。設定時間に何も入力しないと OSD 画面は終了します。
Reset (リセット)	すべてのメニューを工場出荷時の設定にリセットします。

コンソールポートの選択

KL1116 に接続されたコンピュータのコンソールポートの選択方法として、手動選択、OSD (オンスクリーンディスプレイ) メニューによる選択、ホットキーによる選択の3つの方法をご用意しております。OSD 操作によるコンソールポートの選択については次の章で、また、ホットキーによるポート選択については第 5 章でそれぞれ説明します。

手動選択

- ◆ KVM スイッチ上で、選択したいポートに該当するスイッチを押します。
- ◆ 1 番ポート、2 番ポートのスイッチを同時に 2 秒間押すと、キーボードとマウスがリセットされます。
- ◆ 7 番ポート、8 番ポートのスイッチを同時に 2 秒間押すと、オートスキャンモードを起動します。
(p.65 参照)

ホットプラグ

KL1116 はホットプラグ対応製品です。KL1116 をシャットダウンすることなく、ケーブルをポートにつなぎかえることでキーボードやマウス等のつけはずしが可能ですが、ホットプラグの機能が正しく動作するように下記の手順に従ってお使いください。

ステーション位置の変更

ステーション位置は古い親機から新しい親機にケーブルを付け替えることで簡単に変更できます。変更後は、OSD メニューに新しい設定を反映させるために OSD のステーション ID をリセットする必要があります。詳細については p.58 の「RESET STATION IDS」の欄をご参照ください。

コンピュータポートのホットプラグ

OSD メニューに新しいポートの情報設定を反映させるためには、手動で OSD を再設定する必要があります。詳細については、「F3 SET」(p.53 参照)、「F4 ADM」(p.55 参照)をご参照ください。

注意: お使いのコンピュータの OS がホットプラグに対応していない場合、KL1116 のホットプラグ機能が正しく動作しない場合がございます。

シャットダウンと再起動

KL1116 のシャットダウンが必要な場合は、リアパネルから電源ケーブルを抜いてください。
KL1116 を再起動する際には、以下の手順に従ってください。

1. KL1116 に接続されているコンピュータをすべてシャットダウンしてください。

注意: キーボード起動機能をお使いのコンピュータがある場合、シャットダウンしただけではスイッチ側でまだ電源が入っていると認識されるおそれがありますので、電源コードを抜くようお願いいたします。

2. 10 秒後にステーションの電源を入れなおします。

3. ステーションの電源が入ったのを確認したら、KL1116 に接続されているコンピュータに電源を入れてください。

注意: 1台以上のステーションをシャットダウンする場合は、最上位のステーションから順に電源を入れなおしてください。

ポート ID の割り振り

KL1116 のコンピュータポートにはそれぞれユニークなポート ID が割り振られます。ポート ID は、「ステーションナンバー」と「ポート番号」の2つから構成されています。

- ◆ ステーションナンバーはデジチェーン接続されたスイッチの場所を表す2桁の番号です。

注意:

1. 1台目の KL1116 にはステーションナンバーとして 01 が割り振られます。デジチェーン接続された 1 台目の KH0116 には 02 が、その次に接続された KH0116 には 03 がそれぞれ割り振られるといったルールで付番されます。
2. デジチェーン接続された KH0116 にはステーション ID を表示するフロントパネル LED がついています。

- ◆ ポート番号はコンピュータが接続しているステーションのポートを表す 2 桁の番号です。
- ◆ ステーションナンバーはポート番号の前に付番されます。
- ◆ ステーションナンバー、ポート番号共に、2 桁の数字から構成されていますので、1 桁の場合は先頭に 0 詰めされ、01～09 のように表記されます。

例えば、12 台目のステーションの 6 番ポートの割り当てられているコンピュータのポート ID は 12-06 と表記されます。

第4章 OSD 操作

OSD 概要

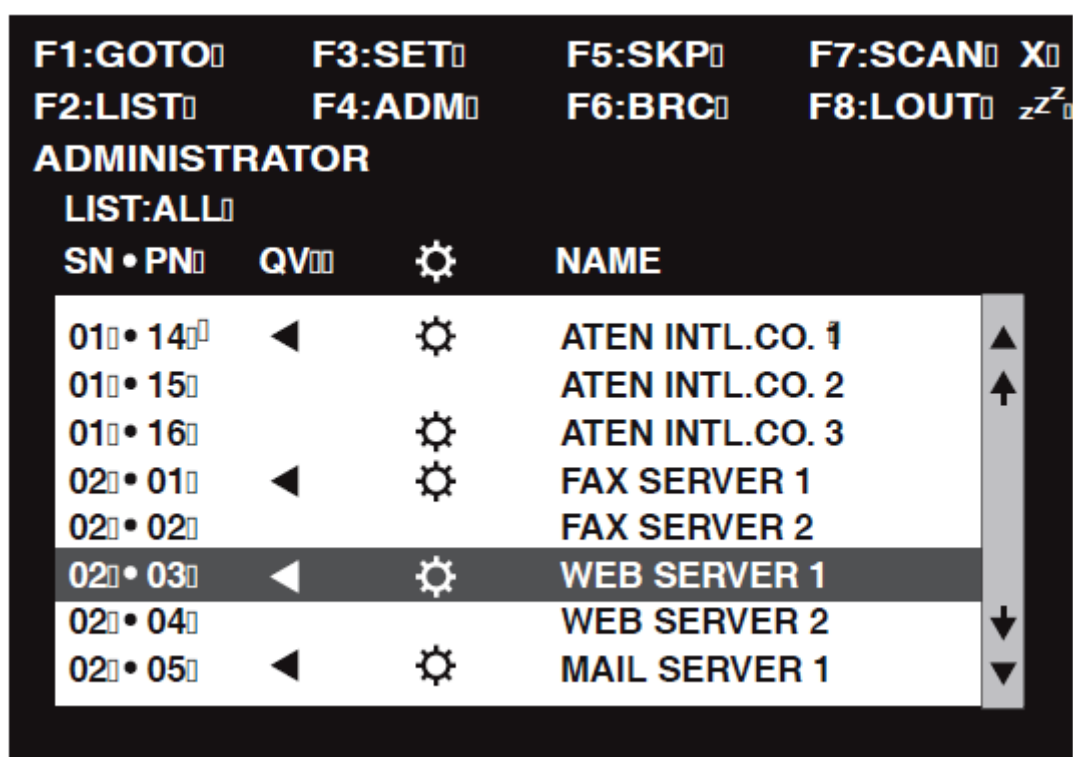
オンスクリーンディスプレイ(OSD)は、メニュー形式で KL1116 本体の諸設定および接続されたコンピュータの管理を行います。これらの操作はすべて OSD メインメニューから実行します。OSD メインメニューを呼び出すには、キーボードの **OSD** キーを押す、または [Scroll Lock]キーを 2 度押ししてください。

注意: OSD 表示のホットキーはデフォルトの[Scroll Lock]キーから[Ctrl]キーに変更できます(詳細は p.53 を参照)。[Ctrl]キーの 2 度押しの際は、キーボードの同じサイドに位置する[Ctrl]キーを押してください(左側を 2 回、もしくは右側を 2 回)。

2 つのレベル(アドミニストレーター/ユーザー)の権限を設定することが可能です。[Scroll Lock]キーを 2 度押しと、OSD メインメニューが表示される前に、ユーザー名とパスワードを入力するダイアログボックスが表示されます。OSD メインメニューにアクセスするためには、これらを入力する必要があります。

OSD 初回起動時やパスワードの設定がされていない場合、ダイアログボックスには何も入力せず、[Enter]キーを 2 度押ししてください。OSD メインメニューがアドミニストレーターの権限で起動し、ユーザーアカウントの設定を含めたすべての OSD ファンクションが使用可能になります。

OSD メインメニューは、以下のように表示されます。




- 注意:
1. この画面はアドミニストレーター権限ログイン時のメインメニューです。F4 および F6 の各機能はアドミニストレーター権限を持つユーザー限定の操作に予約されておりますので、ユーザー権限ログイン時のメインメニューでは、F4 および F6 の各項目は表示されません。
 2. OSD は常にリストビューの状態が始まります。ハイライトバーは OSD 画面が最後に閉じられた時に表示されていた位置と同じ位置で表示されます。
 3. アドミニストレーター権限でアクセス可能なポートを設定した場合、ユーザー権限でログインすると、そのユーザーがアクセス可能なポートのみがリスト表示されます(詳細は p.57 の「SET ACCESSIBLE PORTS」を参照)。

OSD ナビゲーション

- ◆ OSD 画面を閉じる場合は、OSD 画面の右上に位置する×印をクリック、もしくは[Esc]キーを押してください。
- ◆ ログアウトする場合は、メイン画面の上に位置する F8:LOUT をクリック、もしくは OSD 画面右上の「ZZZ」マークをクリック、もしくはキーボードで[F8]キーを押してください。
- ◆ リスト表示を 1 行ずつ上下へ移動する場合は、三角の印(▲▼)をクリック、もしくはキーボードの上下の矢印キーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ リスト表示を 1 ページずつ上下へ移動する場合は、上下の矢印(↑↓)をクリック、もしくはキーボードの[Page Up][Page Down]キーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ ポートを切り替える場合は、選択先のポートをダブルクリック、もしくはハイライトバーを移動させ[Enter]キーを押してください。
- ◆ これらの実行後は、自動的にメニューは 1 段階上の状態に戻ります。

OSD メイン画面 項目

項目	説明
SN-PN	ポート ID (ステーション番号-ポート番号)を表示しています。KVM スイッチのコンピュータ側ポートは個別の番号を持っています。ハイライトバーを移動し[Enter]を押すと、画面がそのポートに接続されたコンピュータに切り替わります。
QV	クイックビュー時に表示するポートを選択します(クイックビューポート設定の詳細は、p.57 を参照)。クイックビューポートとして選択されているコンピュータには矢印が表示されます。
	ポートに接続されたコンピュータの電源がオンのとき、この太陽マークが表示されます。
Name	各ポートに対して名前を登録することができます(ポート名前編集の詳細は、p.56 を参照)。

OSD 機能

KVM スイッチの諸設定および接続されたコンピュータの管理を行う OSD 機能について説明します。OSD の各機能によって、任意のポートへのダイレクト切替、指定したポートのみを対象にしたスキャン、指定したリストのみを対象にした表示、クイックビューポートの設定、ポートネームの設定、OSD の設定等ができます。

OSD の各機能にアクセスするには、以下の手順で作業を行ってください。

1. メイン画面の上部にあるファンクションの文字を直接クリック、もしくはキーボード上のファンクションキーを押します。
2. サブメニューが表示されますので、選択しダブルクリック、もしくはキーボードからハイライトバーを移動、選択し[Enter]を押します。
3. [Esc]キーを押すと、1 段階上のメニューに戻ります。

F1 GOTO

GOTO 機能により、直接ポートネーム、もしくはポート ID を入力することで、ポート切替が可能です。

- ◆ ポートネームを使用する場合、[1]キーを入力後、ポートネームを入力し[Enter]キーを押してください。
- ◆ ポートIDを使用する場合、[2]キーを入力後、ポートIDを入力し[Enter]キーを押してください。

注意: ポートネームもしくはポート ID を入力すると、現在のリスト表示の設定(詳細は p.52 の「F2 LIST」参照)にかかわらず、該当するポートのうち、ユーザーが表示権限を持つもの(「SET ACCESSIBLE PORTS」の詳細は p.57 を参照)がすべて画面にリスト表示されます。

選択をしないで OSD 画面メインメニューに戻るには、[Esc]キーを押してください。

F2 LIST

この機能を用いて、OSD がメインメニューで表示するポートの範囲を設定できます。OSD ファンクションの多くは、メインメニューでリスト表示されているポートだけを操作します。サブメニューの設定項目の詳細は下表をご参照ください。

設定	内容
ALL	設置されているポート全てをリストアップします。
QUICK VIEW	クイックビューポート(p.57 をご参照ください)として選択されたポートをリストアップします。
POWERED ON	接続されているコンピュータの電源がオンになっているポートをリストアップします。
QUICK VIEW + POWERED ON	クイックビューポート(p.57 をご参照ください)として選択され、かつ接続されているコンピュータの電源がオンになっているポートをリストアップします。

選択したいポートを OSD 画面上でダブルクリックするか、メニューのハイライトバーを移動して [Enter] キーを押してください。アイコンが表示され、現在選択している設定が表示されます。

設定を選択し [Enter] を押すと、OSD メインメニューに戻ります。

F3 SET

この機能はアドミニストレーター権限および各ユーザー権限でログイン時の環境設定を行います。それぞれのユーザーの各プロファイルは KVM スイッチ内に保存され、各ユーザーのログイン時に反映されます。

設定変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「F3 SET」の項目をダブルクリック、もしくはハイライトバーをこの項目へ移動させ[Enter]キーを押してください。
2. 次に表示されたサブメニューの、変更したい項目をダブルクリック、もしくはハイライトバーを移動して[Enter]キーを押します。アイコンは、現在選択されている項目を表示しています。設定項目についての説明は下表をご参照ください。

設定	機能
OSD HOTKEY	OSD メインメニューを呼び出すホットキーを設定します。 [Scroll Lock] [Scroll Lock] または [Ctrl] [Ctrl] [Ctrl]キーの入力は、動作中のコンピュータの他のプログラムと競合する可能性があるため、デフォルトは[Scroll Lock]キー 2 度押しになっています。
PORT ID DISPLAY POSITION	画面上のポート ID 表示位置を設定します。デフォルトでは画面の左上ですが、任意の位置にポート ID を表示することができます。 ポート ID の表示位置を決めるには、マウスまたは矢印キーと[Page Up]、[Page Down]、[Home]、[End]、そして[Num Lock]をオフにしたテンキーの[5]を用います。それから、ダブルクリックまたは[Enter]を押して位置を定め、F3 SET のサブメニュー画面に戻します。
PORT ID DISPLAY DURATION	ポート切替が行われた後、画面にポート ID を表示している時間を設定します。 User Defined: ユーザー設定 (1~255 秒間) Always On: ポート ID を常に表示 User Defined を選択した場合は、秒数を入力しその後[Enter]を押してください。デフォルトでは 3 秒間です。0 を選択すると、この機能を無効にします。

(表は次のページに続きます)

(F3 SET の表、続き)

設定	機能
PORT ID DISPLAY MODE	ポート ID 表示方法を選択します。ポート番号のみ (PORT NUMBER)、ポート ネームのみ (PORT NAME)、または、ポート番号とポートネームの組み合わせ (PORT NUMBER + PORT NAME) があります。デフォルトは、ポート番号と ポートネームの組み合わせ (PORT NUMBER + PORT NAME) です。
SCAN DURATION	オートスキャンモード (p.61 をご参照ください) で、各ポートに接続されたコンピ ュータの表示のインターバル時間を設定します。1~255 秒までの数値を入力 し、その後 [Enter] を押してください。デフォルトは 5 秒間です。0 秒で設定する と SCAN 機能を使用不可にします。
SCAN/SKIP MODE	スキップモード (p.59 をご参照ください) およびオートスキャンモード (p.61 をご 参照ください) で、どのコンピュータにアクセスするかを選択します。設定は、 ALL — アクセスできるすべてのポート (p.57 をご参照ください) QUICK VIEW — アクセス可能かつクイックビューポートとして設定されたポ ート (p.57 をご参照ください) のみ POWERED ON — アクセス可能かつ接続されているコンピュータの電源が オンになっているポートのみ QUICK VIEW + POWERED ON — アクセス可能でクイックビューポートとし て設定され、かつ接続されているコンピュータの電源がオンになっているポ ートのみ の 4 つがあります。デフォルトは ALL です。
SCREEN BLANKER	この機能で設定された時間、コンソールから入力されていない場合、画面はブ ランクになります。1~30 分の時間を入力してから、[Enter] を押します。0 分で 設定するとこの機能を使用不可にします。デフォルトは 0 です。
HOTKEY COMMAND MODE	ホットキー操作がコンピュータで動作中のプログラムと競合がある場合などに、 ホットキーコマンドの使用可能/不可を切り替えます。デフォルトでは ON 使用 可能になっています。

F4 ADM

F4 ADM はアドミニストレーターのみが使用できる機能です。この機能により、アドミニストレーターは OSD の操作全体を設定・管理できます。設定を変更するには、画面で「F4 ADM」をダブルクリックするか、[↑][↓]上下の矢印キーを使ってハイライトバーを設定したい項目まで移動させ、[Enter]を押します。

項目選択後、F4 ADM ファンクションのサブメニューが表示されます。選択したいものをダブルクリックするか、または、ハイライトバーをそこまで動かした後、[Enter]を押します。選択する前に、アイコンが表示されます。設定方法は下表をご参照ください。

設定	機能
SET USERNAME AND PASSWORD	<p>この機能でアドミニストレーターおよびユーザーの、ユーザーネーム/パスワードを設定します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. アドミニストレーター1人およびユーザー4人のパスワードを設定します。2. ユーザーフィールドまたはアドミニストレーターフィールドのうち、1つを選択した後、ユーザーネームとパスワードを入力する画面が表示されます。ユーザーネームとパスワードは英数字(A~Z, 0~9)最大15文字までの組み合わせが可能です。3. 各ユーザーネームとパスワードを入力しパスワードを確定した後、[Enter]を押します。4. 以前のユーザーネームまたはパスワードを修正・消去する場合は、文字と数字を、[Backspace]キーを用いて消してください。
SET LOGOUT TIMEOUT	<p>この機能で設定された時間、コンソールからの入力がない場合にそのオペレータは自動的にログアウトされます。コンソールを再び使用する前には、ログインが必要となります。この機能は、オペレータがもうコンピュータにアクセスする必要がなくなったのにログアウトをするのを忘れた場合、他のオペレータがそのコンピュータにアクセスできるようにするものです。タイムアウトの値を設定するには、1~180分までの数値を入力し、[Enter]を押します。0分で設定するとこの機能を使用不可にします。デフォルトは0です。</p>

(表は次のページに続きます)

(F4 ADM の続き)

設定	機能
EDIT PORT NAMES	<p>どのポートにどのコンピュータが接続されているか覚えやすくするために、各ポートに名前をつけることができます。この機能により、アドミニストレーターはポート名前を設定したり、編集したり、削除したりすることができます。</p> <p>ポート名前を編集は以下の手順で行ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 編集したいポートをクリックするか、[↑][↓]上下の矢印キーを使ってハイライトバーを設定したいポートまで移動させ、[Enter]を押します。 2. 新しいポート名前を入力するか、以前のポート名前を訂正または削除してください。ポート名の最大文字数は 12 文字で、英数字 (a~z、0~9) と、記号 (+ 、 - 、 / 、ピリオド、スペース) が使用できます。大小文字は区別されません。OSD ではポート名はすべて大文字で表示されます。 3. ポート名の編集を終えたら、[Enter]を押してその変更を有効にしてください。変更を途中で止める際には、[Esc]を押してください。
RESTORE DEFAULT VALUES	<p>この機能は、ポート識別を補助するポート名の設定を除く、すべての変更を工場出荷時のデフォルト値に戻します。(工場出荷時のデフォルト設定に関しては p.79 をご参照ください。)</p>
CLEAR NAME LIST	<p>ポート名前設定を削除して、工場出荷時のデフォルト値(全ポート名前無し)にします。</p>
ACTIVATE BEEPER	<p>ビープ音の設定を行います。Y(有)または、N(無)を選んでください。Y を選ぶと、ポートが変更された時、オートスキャン機能 (p.61 をご参照ください) が有効になっている時、OSD メニューで無効な入力された時にビープ音が鳴ります。デフォルトは Y(有)となっています。</p>

(表は次のページに続きます)

(F4 ADM の続き)

設定	機能
SET QUICK VIEW PORTS	<p>どのポートをクイックビューポートとして選択するかを設定します。この機能はアドミニストレーターのみが設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ クイックビューポートとして、ポートを選択/解除するには、そのポートをダブルクリックするか、[↑][↓]上下の矢印キーを使用してハイライトバーをそこへ移動させた後、[Space] キーを押してください。◆ ポートがクイックビューポートとして選択された場合、メイン画面のリストの「QV」項目に矢印が表示されます。クイックビューポートとして選択されていない場合には、何も表示されません。◆ LIST (p.52 の「F2 LIST」をご参照ください) でクイックビューオプションのひとつが選択された場合、ここで選択されたポートだけがリストに表示されます。◆ オートスキャン (p.54 をご参照ください) でクイックビューオプションのひとつが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがオートスキャンされます。 <p>デフォルトはどのポートもクイックビューポートとして選択されていません。</p>
SET ACCESSIBLE PORTS	<p>アドミニストレーターはこの機能でポートごとにユーザーのアクセス権を決定できます。各ユーザーに対し対象ポートを選び、その後、[Space]キーを押して、F(フルアクセス)、V(モニタリングのみ)または、BLANK(ブランク)のいずれかの設定を行います。全てのポートに対しこの作業を繰り返してください。設定が終わったら[Esc]を押します。デフォルトでは、全てのポートが全てのユーザーに対しF(フルアクセス)となっています。</p> <p>注意: ブランク設定は、アクセス権が与えられていないことを意味します。そのポートはメイン画面のユーザーのリストでも表示されません。</p>

(表は次のページに続きます)

(F4 ADM の続き)

設定	機能
<p>RESET STATION IDS</p>	<p>デジチェーン接続されているステーションの位置を物理的に変更しただけでは、OSD の設定が新しい内容に反映されません。その場合はこの機能を用いてKL1116に接続されているステーションをスキャンしなおし、OSDを物理的な設定に更新します。</p> <p>注意: この機能ではステーションナンバーの情報のみ更新されます。ポート名を除いたすべてのアドミニストレーターの設定(アクセス可能ポート、クイックビュー対象ポート等)は、この変更が影響するすべてのコンピュータに対して手動で更新する必要があります。</p>
<p>FIRMWARE UPGRADE</p>	<p>KL1116 のファームウェアをアップグレードする場合(詳細は p.71 の「ファームウェアアップグレードユーティリティ」を参照)は、この項目であらかじめファームウェアアップグレードモードにしておいてください。</p> <p>このメニューを起動すると、現在お使いのファームウェアのバージョン情報が表示されます。ファームウェアアップグレードモードを有効にする場合は[Y]を、ファームウェアアップグレードモードを有効にせずメニューを終了する場合は[N]をそれぞれ押してください。</p>
<p>SET PS/2 CLK MODE</p>	<p>設定したいコンピュータをリストから選択し、[Space] キーで変更内容を切り替えて設定してください。</p> <p>0 PS/2 CLK delay = Off; ASIC filter = On 1 PS/2 CLK delay = On; ASIC filter = Off 2 PS/2 CLK delay = Off; ASIC filter = Off</p> <p>デフォルトは 0 です。コンピュータに問題がない限り、このデフォルト値の設定をお勧めします。お使いのコンピュータに DELL Server 1655MC に関するトラブルがある場合は、1 を設定してください。</p>

(表は次のページに続きます)

設定	機能
SET CONSOLE MODE	<p>LCD コンソールとセカンドコンソールのどちらを有効にするかを設定します。</p> <p>0 両コンソールを有効 1 LCD コンソールのみ有効 2 セカンドコンソールのみ有効</p> <p>[Space] キーで変更内容を切り替えて設定してください。デフォルトは 0 です。</p>

F5 SKP

この機能によって、前後の利用可能なコンピュータのポートに簡単にスキップすることができます。

- ◆ スキップモード切替が利用できるコンピュータの選択は、「F3 SET」の機能におけるスキャン/スキップモードで行うことができます。(p.54 をご参照ください。)
- ◆ スキップモードでは以下のキーで操作を行います。
 - ← 現在のポートから、リスト内の1つ前のポートにスキップします。
 - 現在のポートから、リスト内の1つ後のポートにスキップします。
 - ↑ 現在のポートから、リスト内の1つ前のステーションにある最後のポートにスキップします。
 - ↓ 現在のポートから、リスト内の1つ後のステーションにある最初のポートにスキップします。

注意: スキップする際は、スキャン/スキップモード(p.54 参照)の選択できる前後のコンピュータにしかスキップできません。

- ◆ ポートがスキャン/スキップモードで選択されている場合、三角の印(▲▼)が選択されたポートがポート ID の表示よりも先に選択状態になります。
- ◆ スキップモードが有効な場合、コンソールが正常に機能しませんので、コンソールから操作したい場合は、スキップモードを終了する必要があります。
- ◆ スキップモードを終了する際には、[Space]キー、または[Esc]キーを押してください。

F6 BRC

F6 BRC はアドミニストレーターのみが使用できる機能です。この機能が有効な場合、コンソールからのコマンドは KL1116 に接続されているすべての利用可能なコンピュータにブロードキャストされます。

これは、システム全体のシャットダウンやソフトウェアのインストール/アップデート作業など、複数のコンピュータで同じ操作を繰り返す必要があるユーザーには特に便利な機能です。

- ◆ BRC モードが有効な場合、現在選択中のポート ID が表示される前に、画面上にスピーカーマークが表示されます。
- ◆ BRC モードが有効な場合、マウスが正常に機能しませんので、マウスをお使いになる場合は BRC モードを終了する必要があります。
- ◆ BRC モードを終了するには、OSD メニューを OSD 起動用ホットキーで起動し、**[F6]**のフィールドをクリック、もしくは**[F6]**を押して BRC モードをオフにしてください。

F7 SCAN

スキャン機能では手動で切替作業をすることなく、稼働中のコンピュータを一定の間隔で自動切替、監視することができます。

- ◆ オートスキャン時に表示するコンピュータは、スキャンモード設定の「**F3 SET**」(詳細は、p.54 参照)で選択します。
- ◆ それぞれのポートを表示する時間間隔の設定は、「**F3 SET**」の「SCAN DURATION」(詳細は、p.54 参照)で行います。
- ◆ オートスキャンモード中にアクセスされているポートは、画面上のポート ID の前に[S]マークが表示されています。
- ◆ 任意のポート表示で一時停止したい場合は、[P]キーを押す、もしくは左クリックしてください。オートスキャンモードが一時停止状態になります。再び[P]キーを押す、もしくは左クリックすると、オートスキャンモードに戻ります。詳細は p.66 の「オートスキャンの起動方法」をご参照ください。

注意: キーボードで任意のキーを 2 度押しすることによって、オートスキャンモードに戻ることができます。

- ◆ スキャンをあるポートで停止したい場合は[Space] キーもしくは[Esc]キーを押して、オートスキャンモードを終了してください。コンピュータが接続されていない、もしくは接続されているコンピュータの電源がオフの場合は、モニタに何も表示されません。マウスとキーボードで入力しても何も反応しません。「SCAN DURATION」で設定された時間の経過後、オートスキャンは次のポートに切り替わりますので、しばらくお待ちください。
- ◆ オートスキャン中、通常のキーボード/マウス操作は無効になります。入力の必要がある場合は、[Space] キーを押してオートスキャンモードを解除してください。
- ◆ オートスキャンモードの解除は [Space] キーもしくは[Esc]キーを押してください。

F8 LOUT

LOUT(ログアウト)操作は、KVM スイッチからログアウトを行います。**[F8]**の項目をクリック、または**[F8]**キーを押すことで、OSD からログアウトし、コンソール画面表示が消えます。これは OSD メインメニューを表示している間に**[Esc]**キーを押し、OSD を閉じる操作とは異なります。

ログアウト後に KVM 操作をする場合は、OSD 呼出操作を行い、再度 KVM スイッチへログインしてください。

-
- 注意:**
1. OSD からログアウト後に再び OSD を表示すると、ユーザーネームとパスワードを入力する必要があります。
 2. ログアウト後に再び KVM スイッチへログインして OSD を表示し、メニューからポートを選択しない状態で**[Esc]**キーで OSD を閉じると、ポートが選択されていない状態になり、画面には Null Port 無効ポートメッセージが表示されます。
-

第5章

ホットキー操作

ホットキーによるポートアクセス

ホットキーによるポートアクセスによって、切り替えたいコンピュータのコンソールをキーボードから直接選択することができます。KL1116 のホットキーによるポートアクセスには以下の3つの特長があります。

- ◆ アクティブなポートの選択が可能
- ◆ オートスキャン機能搭載
- ◆ スキップモードによるスイッチング

ホットキーモードの起動

すべてのホットキー操作の前には、ホットキーモード(HKM)を起動する必要があります。HKM モードには、2種類の起動方法があり、1つはキーボードに備え付けられている[Hotkey]キー(p.63の「ホットキー・OSD 専用起動キー」参照)を押すことによって起動します。2つ目の起動方法は以下のとおりです。

1. [Num Lock]キーを押してください。
2. [Num Lock]キーを押したまま、[-]キーを押して離してください。
3. [Num Lock]キーを離してください。

この操作は [Num Lock] + [-] と表記されます。

ホットキーモードが起動されている場合、

- ◆ Caps Lock、Scroll Lock の各 LED が順番に点滅します。
- ◆ コマンドプロンプトが画面上に青色の背景に黄色い文字で画面上に表示され、入力したホットキーに関連する情報が表示されます。
- ◆ 通常のキーボードやマウスの機能がサスペンドされ、ホットキーで予約されている入力と、マウスのクリックしか受け付けなくなります。(次のセクションをご参照ください)
- ◆ ホットキーモードを終了するには、[Esc]キーを押してください。

アクティブポートの選択

各コンピュータポートにはユニークなポート ID が割り当てられます。(ポート ID の割り振りについては、p.47をご参照ください)コンピュータが接続しているコンピュータポートのポートIDを指定するホットキーの組み合わせによって、KL1116に接続されているコンピュータに直接アクセスすることが可能です。

以下の手順でアクティブポートを選択してください。

1. ホットキーモードを起動します。(詳細は p.63 を参照してください)
2. ポート ID を入力します。
入力されたポート ID はコマンドプロンプトに表示されます。入力し間違えた場合は、[Backspace]キーで入力内容を削除し、正しい内容を入力しなおしてください。
3. [Enter]キーを押します。
[Enter]キーを押すと、選択されたコンピュータに KVM スイッチのフォーカスが移り、ホットキーモードは終了します。

オートスキャン機能

オートスキャン機能を使うと、現在ログインしているユーザーがアクセス可能で、かつ稼働中のコンピュータを対象に、コンピュータポートに設定されたインターバルで自動的に切り替えてモニタリングを行うことができます。(アクセス可能なポートについては、p.54 の OSD「F3 SET」機能の「SCAN/SKIP MODE」をご参照ください。)

スキャンインターバルの設定

オートスキャンが各ポートを表示する時間は、OSD の「F3 SET」の「SCAN DURATION」(p.54 参照)スキャンインターバルの設定によって決まります。ホットキーによる自動スキャンを有効にする前に、以下のホットキーの組み合わせによってスキャンのインターバルを変更することもできます。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.63 参照)

2. [T][n]キーを入力してください。

[T]はアルファベットの T で、[n]は KL1116 が 1 つのポートを表示している時間(秒)を 1～255 の間の数値で表します。

T とコマンドプロンプトに入力したインターバルの数値が画面上に表示されます。入力し間違えた場合は、[Backspace]キーで入力内容を削除し、正しい内容を入力しなおしてください。

3. [Enter]キーを押してください。

[Enter]キーを押すと、自動的にホットキーモードを終了し、オートスキャンを実行します。

オートスキャンの起動方法

オートスキャンを起動するには、以下の手順でホットキーを使用します。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.63 参照)
2. **[A]**キーを押してください。
[A]キーを押すと、自動的にホットキーモードを終了します。この操作でオートスキャンモードに入り、オートスキャンが開始されます。
 - ◆ オートスキャンモードでは、**P** を入力、またはマウスの左クリックで特定のコンピュータを選択したままにするためにスキャンを一時停止することが可能です。オートスキャンが一時停止されている間はコマンドプロンプトに「**Auto Scan : Paused**」と表示されます。
 - 特定のコンピュータを選択する際には、オートスキャンモードを終了し再開するのではなく、一時停止機能をご利用になる方が便利です。(一時停止した場合、前回終了したポートからスキャンを再開できるため)
 - 一方、オートスキャンモードを終了する場合は、スキャンを再開した際に KL1116 に接続されている1台目のコンピュータからスキャンをやり直します。
 - 一時停止後にオートスキャンを再開する場合は、任意のキーを押すか、左クリックしてください。この場合、前回終了したポートからスキャンが開始されます。
 - ◆ オートスキャンモードを実行中の場合、通常のキーボードやマウスの機能がサスペンドされ、ホットキーで予約されている入力と、マウスのクリックしか受け付けなくなります。コンソールの通常機能をご利用になりたい場合は、オートスキャンモードを終了する必要があります。
3. **[Esc]**キー、または**[Space]**キーを押してオートスキャンモードを終了してください。オートスキャンモードの終了と同時にオートスキャンも終了します。

スキップモード

このスキップモード機能によって、手動で選択されているポートを切り替えてモニタリングすることが可能です。オートスキャンモードは一定の時間が経過するとポートが自動的に切り替わるのに対し、スキップモードにはポート切替のインターバルは特にございません。以下のホットキーの組み合わせを使ってスキップモードを起動してください。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.63 参照)

2. [カーソル]キーを入力してください。

- ◆ [カーソル]キーは上下左右の各矢印キーを示します。カーソルキーを使用すると、自動的にホットキーモードが自動的に終了し、以下のようにスキップモードを開始し、ポートの選択が可能になります。



現在選択中のポートから、現在のポートの直前にあるアクセス可能なコンピュータにジャンプします。(アクセス可能なポートの説明に関しては p.54 の「SCAN/SKIP MODE」の欄をご参照ください。)



現在選択中のポートから、現在のポートの直後にあるアクセス可能なコンピュータにスキップします。



現在選択中のポートから、前の KVM ステーションに接続されている最後にアクセス可能なポートにスキップします。現在選択されているのが 1 台目の KVM ステーションの場合は、最後の KVM ステーションの最後のポートにスキップします。



現在選択中のポートから、次の KVM ステーションに接続されている最初にアクセス可能なポートにスキップします。現在選択されているのが最後の KVM ステーションの場合は、1 台目の KVM ステーションの最初のポートにスキップします。

- ◆ スキップモードを開始すると、カーソルキーを長押しすることで順番にアクセス可能なポートにスキップしていきますので、その都度ホットキーを起動する必要がありません。
- ◆ スキップモードを実行中の場合、通常のキーボードやマウスの機能がサスペンドされ、ホットキーで予約されている入力と、マウスのクリックしか受け付けなくなります。コンソールの通常機能をご利用になりたい場合は、スキップモードを終了する必要があります。

3. [Esc]キー、または[Space]キーを押してスキップモードを終了してください。

ホットキーによるビープ音設定

ビープ音は専用ホットキーでオン/オフの切替が可能です。(p.56 の「ACTIVATE BEEPER」の欄をご参照ください)以下のホットキーでビープ音を調節してください。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.63 参照)
2. [B]キーを押してください。

[B]キーを押すと、ビープ音のオン/オフが切り替わります。また、コマンドプロンプトにはビープ音がオンの場合には「Beeper On」、オフの場合には「Beeper Off」がそれぞれ 1 秒間画面上に表示され、メッセージが消えるとホットキーモードも自動的に終了します。

ホットキー一覧表

[Num Lock] + [-]	[Port ID] [Enter]	該当するポートIDに接続しているコンピュータを選択します。
	[T][n][Enter]	オートスキャンインターバルを n 秒に設定します。 (n のとりうる値は 1~255 の間の数値です)
	[A]	オートスキャンモードを起動します。 オートスキャンモード実行中は、[P]または左クリックでオートスキャンを一時停止します。 オートスキャンを一時停止している場合は、任意のキーを押すか、もう一度左クリックすることでオートスキャンを再開することができます。
	[←]	スキップモードを起動し、現在選択中のポートの直前にあるアクセス可能なポートにスキップします。
	[→]	スキップモードを起動し、現在選択中のポートの直後にあるアクセス可能なポートにスキップします。
	[↑]	スキップモードを起動し、現在選択中のポートから、前のステーションのアクセス可能な最後のポートにスキップします。現在選択中のポートが1台目のステーションにある時にこの操作をした場合、最後のステーションにあるアクセス可能な最後のポートにスキップします。
	[↓]	スキップモードを起動し、現在選択中のポートから、次のステーションのアクセス可能な最初のポートにスキップします。現在選択中のポートが最後のステーションにある時にこの操作をした場合、最初のステーションにあるアクセス可能な最初のポートにスキップします。
[B]	ビープ音のオン/オフを切り替えます。	

第6章

ファームウェアアップグレードユーティリティ

Windows ベースのファームウェアアップグレードユーティリティ(FWUpgrade.exe)を使用することで、KVM スイッチのファームウェアを自動的に簡単にアップグレードできます。

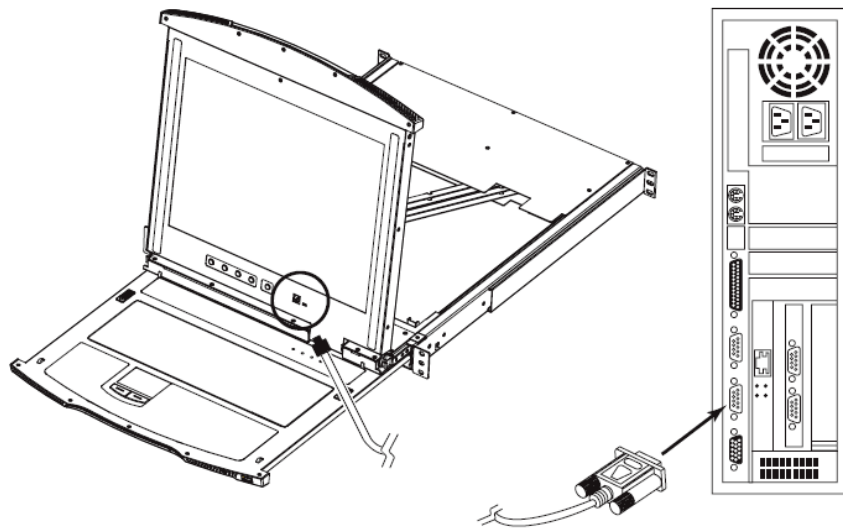
このユーティリティは製品別のファームウェアアップデートパッケージから構成されています。最新のファームウェアは ATEN Web サイトで公開しておりますので、定期的にダウンロードサイトをご覧くださいようお願い致します。 <http://www.aten.com/download/download.php>

ファームウェアアップグレードをはじめる前に

ファームウェアアップグレードをはじめる前に下記のように準備してください。

1. KL1116 に接続されていないコンピュータで弊社 Web ダウンロードサイトにアクセスしてください。型番のリストから KL1116 を選択してください。
2. アップグレードしたいバージョンのパッケージを選択し、コンピュータにダウンロードしてください。(最新版を推奨します)
3. 製品同梱のファームウェアアップグレードケーブルを使用し、KL1116 側ファームウェアアップグレードポートと、ファームウェアパッケージを保存したコンピュータ側 COM ポートを接続してください。

注意: デイジーチェーン接続されているステーションはデイジーチェーン専用ケーブルを通じてアップグレードデータを自動的に受信します。

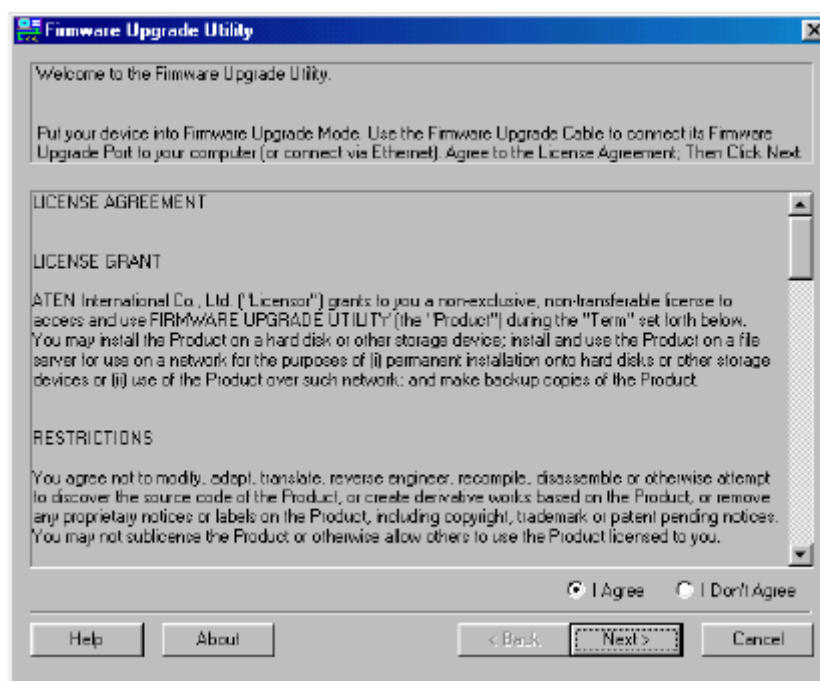


4. KVM スイッチに接続されているコンピュータをすべてシャットダウンしてください。(このときステーションはシャットダウンしないでください)
5. お使いの KVM コンソールから OSD を起動し、**F4 ADM** 機能を選択してください。
6. メニュー下部にある「FIRMWARE UPGRADE」を選択し、[Enter]キーを押した後、[Y]を押してファームウェアアップグレードモードを起動します。(p.58 参照)ファームウェアアップグレードモードが起動すると、現在のファームウェアアップグレードのバージョンが画面に表示されます。

アップグレード作業

ファームウェアのアップグレードは、下記の手順で行ってください。

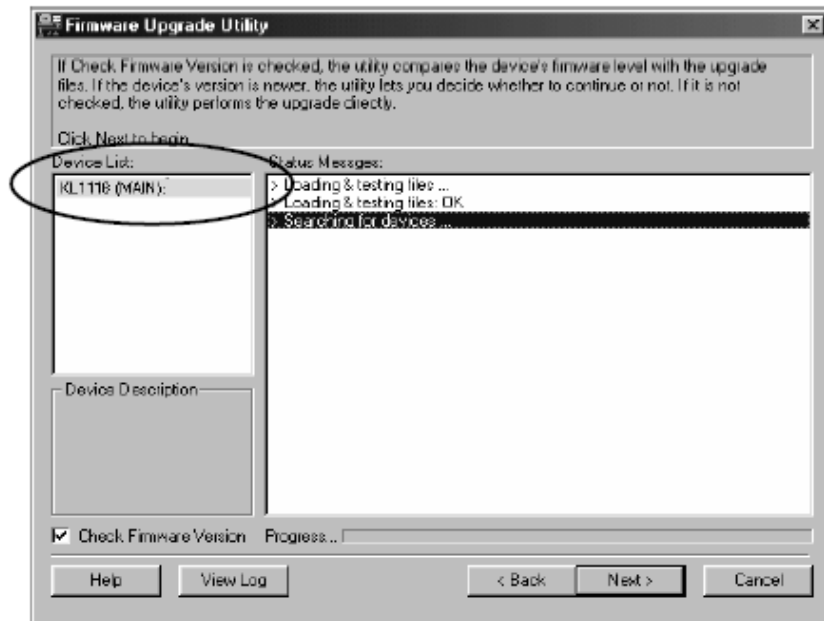
1. KL1116 をファームウェアアップグレードモードにして、ダウンロードされたファームウェアアップグレードパッケージを実行してください。 - 保存したファイルのアイコンをダブルクリック、もしくはコマンドラインからファイルパスを入力して実行してください。
「Welcome Firmware Upgrade Utility」の画面が表示されます。



注意: 画像は例です。

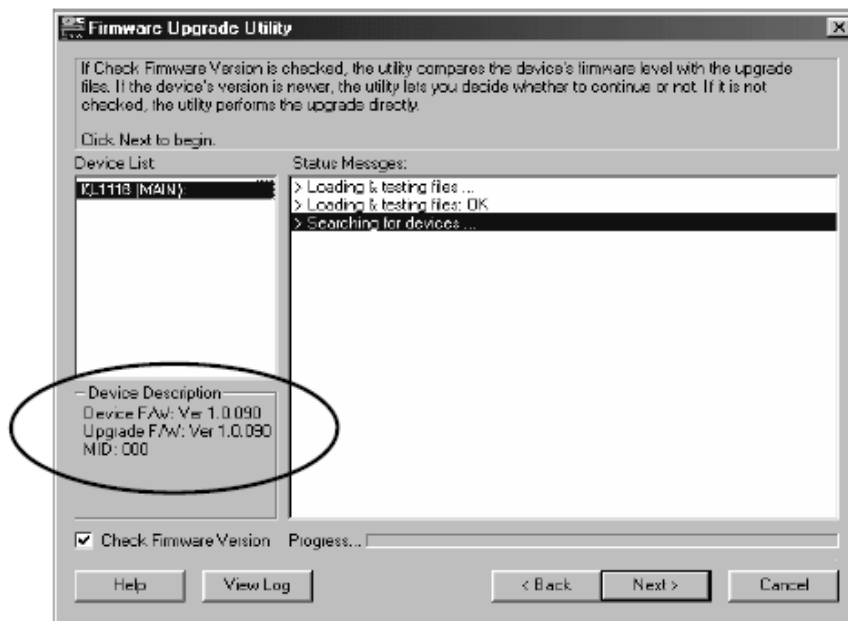
2. 使用許諾契約書を読み、同意してください(「I Agree」をチェックすることで同意)。

- 「Next」ボタンをクリックしてください。ファームウェアアップグレードユーティリティのメイン画面が表示されます。



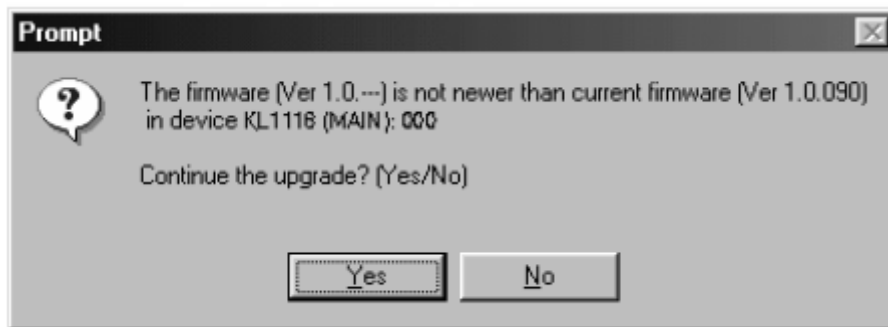
ユーティリティは接続先を調査し、パッケージからアップグレード可能なデバイスリストを表示します。

- デバイスを選択すると、「Device Description」パネルに選択されたデバイスの詳細情報が表示されます。



5. デバイスを選択したら、「Next」ボタンをクリックしてアップグレードを実行します。

- ◆ 「Check Firmware Version」のチェックボックスをオンにすると、ユーティリティはデバイスのファームウェアのレベルとアップグレードファイルの比較を行います。もし、デバイスにインストールされているバージョンがアップグレードファイルのバージョンより新しい場合は、下記のダイアログが表示され、アップグレードを継続するかどうか選択できます。

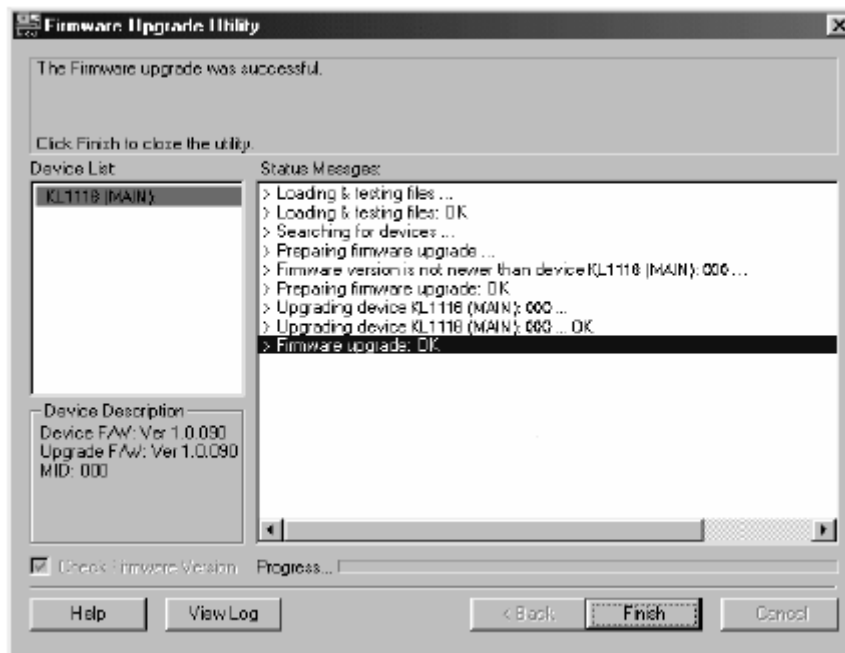


チェックボックスがオフの場合、ユーティリティはファームウェアのバージョンを確認せずアップグレードファイルをインストールします。

- ◆ アップグレード進捗状況を表すメッセージがメッセージパネルに、また、進行状況がプログレスバーに表示されます。

アップグレード成功

アップグレードが完了した後、下図のようなダイアログにてアップグレードが成功したことが表示されます。



「Finish」ボタンをクリックしてファームウェアアップグレードユーティリティを閉じてください。

アップグレード失敗

アップグレード成功ダイアログが表示されない場合は、アップグレードが正常に終了しなかった可能性があります。アップグレードが正常に終了しなかった場合は、次の項に従ってファームウェアアップグレードリカバリーを実行してください。

ファームウェアアップグレードリカバリー

ファームウェアアップグレードリカバリーが必要となる代表的な原因として、以下の 3 つが挙げられます。

- ◆ ファームウェアアップグレードモード (p.72 参照) を起動したが、アップグレード操作を行わなかった。
- ◆ メインボードファームウェアのアップグレードが何らかの理由で失敗した。
- ◆ I/O ボードのファームウェアのアップグレードが何らかの理由で失敗した。

ファームウェアアップグレードリカバリーを実行する場合、下記をご参照ください。

1. KVM スイッチの電源を切ってください。デイジーチェーン接続している場合は、ケーブルをはずしてください。
2. ファームウェアアップグレードケーブルをファームウェアアップグレード専用ポートに接続してください。
3. ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「RECOVER」の位置に切り替えてください。
4. KVM スイッチに電源を入れ、アップグレードの手順を繰り返します。
5. スイッチのファームウェアアップグレードに成功したら、電源を切って、ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「NORMAL」の位置に戻してください。
6. デイジーチェーン接続している場合は、ケーブルをつなぎなおしてください。
7. スイッチの電源を入れてください。

これで、ファームウェアアップグレードリカバリー操作は完了です。KVM スイッチが使用可能になります。

付録

KL1116・KH0116 接続対応表

下記の表は、KL1116/KH0116 の台数と、デジチェーン接続した場合に操作できるコンピュータの台数の関係を表しています。

MVs	Computers	MVs	Computers	MVs	Computers	MVs	Computers
1	1-16	9	129-144	17	257-272	25	385-400
2	17-32	10	145-160	18	273-288	26	401-416
3	33-48	11	161-176	19	289-304	27	417-432
4	49-64	12	177-192	20	305-320	28	433-448
5	65-80	13	193-208	21	321-336	29	449-464
6	81-96	14	209-224	22	337-352	30	465-480
7	97-112	15	225-240	23	353-368	31	481-496
8	113-128	16	241-256	24	369-384	32	497-512

※「MVs」の列はKL1116の台数(複数台の場合は1台のKL1116と、KL1116にデジチェーン接続されたKH0116の台数の合計)を、Computersの列はデジチェーン接続した際に操作可能なコンピュータの台数をそれぞれ表します。

OSD の工場出荷時における初期設定一覧

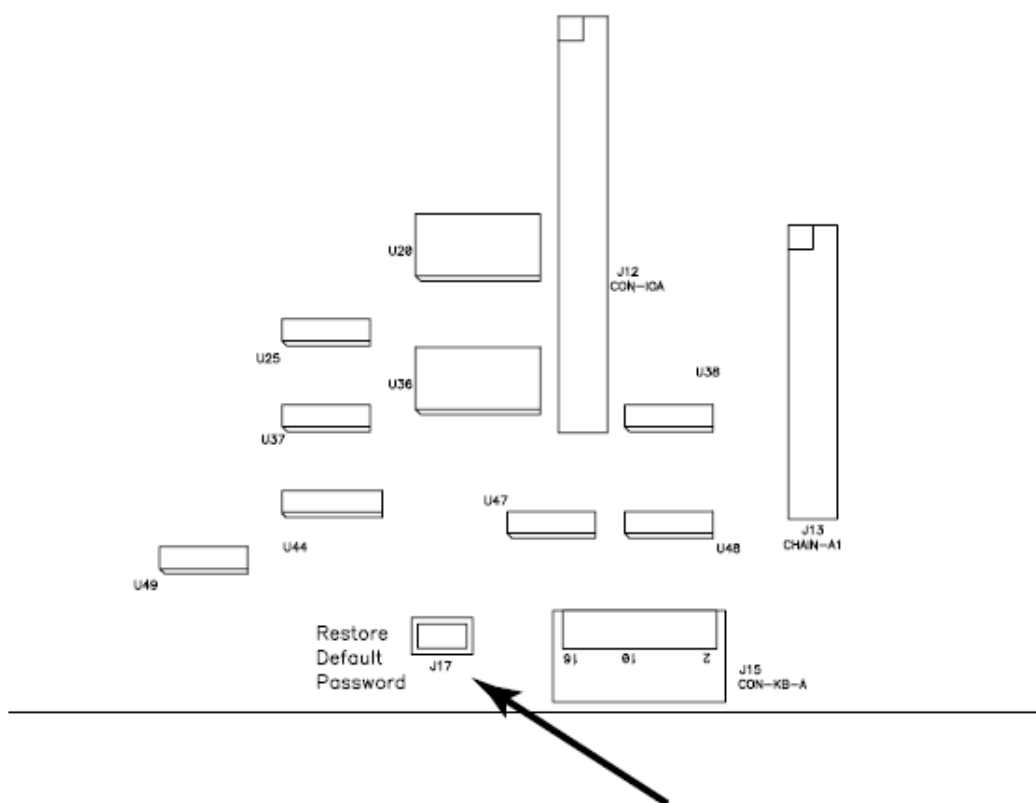
KL1116 の工場出荷時における初期設定の内容は以下のとおりです。

設定	初期値
OSDホットキー	[Scroll Lock] [Scroll Lock]
ポートID表示位置	左上部
ポートID表示時間	3 秒
ポートID表示モード	ポート番号およびポートネーム
スキャン時間	5 秒
スキャン/スキップモード	ALL (アクセスできるすべてのポート)
スクリーンブランカー機能	0 (無効)
ログアウトタイムアウト	0 (無効)
ビープ音	Y (有効)
アクセス可能ポート	F (全ポートに対し、全ユーザーがアクセス可能)

ログイン情報の削除

入力したユーザー名とパスワードの情報が間違っている、ユーザー名とパスワードを忘れたなどの理由でアドミニストレーターでのログインが実行できない場合、以下の手順でログイン情報を削除してください。

1. KL1116 の電源を切り、ユニットシャシーから上部カバーをはずします。
2. スイッチのメインボード上の「Default Password」と書かれてあるジャンパをショートさせます。



3. KL1116 に電源を入れます。
電源を入れると以下のメッセージが LCD 画面に表示されます。
USERNAME AND PASSWORD INFORMATION HAS BEEN CLEARED.
PLEASE POWER OFF THE SWITCH, REMOVE THE JUMPER, CLOSE
THE CASE, THEN RESTART.
4. 電源を入れなおすと、OSD のログイン機能が工場出荷時の初期設定にしたがって起動し (p.48 参照)、アドミニストレーター・ユーザーのパスワードともにリセットされます。

イージーセットアップラックマウントキット

イージーセットアップラックマウントキットは、標準キットに比べて非常に簡単に製品のマウント作業ができるように設計されたものです。対応ラックの仕様は下記をご参照ください。

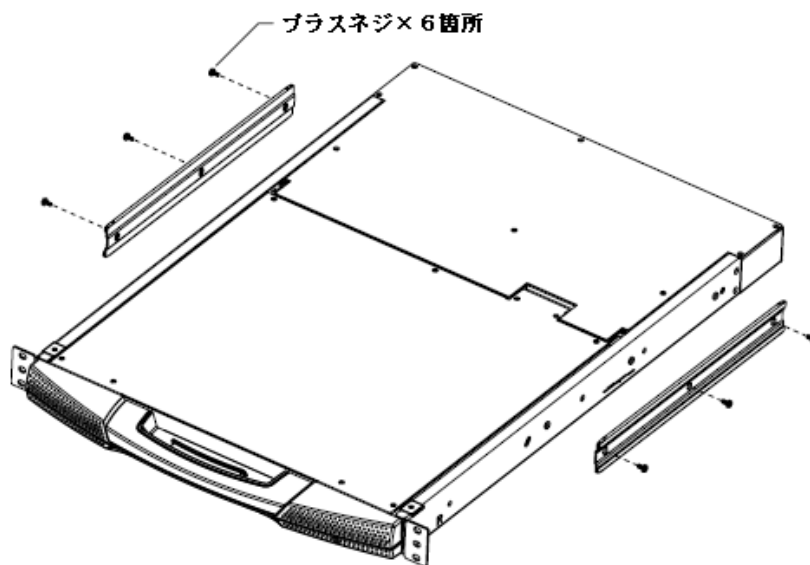
KVM 型番	レールキット	対応ラック奥行き (取付支柱間の距離)
KL1116MJJS	イージーセットアップ ラックマウントキット/ショート	42cm～70cm
KL1116MJJL	イージーセットアップ ラックマウントキット/ロング	68cm～105cm

注意: ラックマウントキットの対応奥行き表示は、ラック取付支柱間の距離を表しています。実際のラックマウント作業の際には、ラック内寸に対するドロワー本体の奥行きやケーブル取り回しを考慮する必要がありますのでご注意ください。

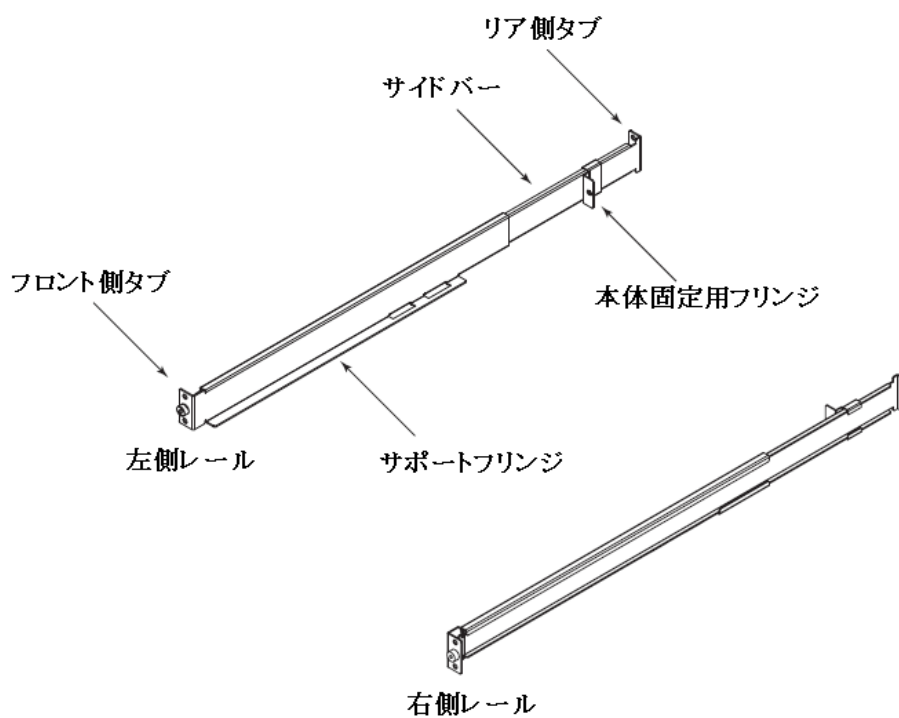
ロングレールキットの標準ラックマウントキットを取り付けるには、同梱のショートレールをロングレールに交換し、マニュアルの内容に沿って KL1116 を取り付けるだけです。詳細については p.25 の「標準ラックマウントキット」をご参照ください。

イージーセットアップラックマウントキットを使って作業を行う場合、一人で KL1116 を取り付けることが可能です。イージーセットアップラックマウントキットを使用する際のマウント作業は下記の手順に従ってください。(ショート/ロング共通)

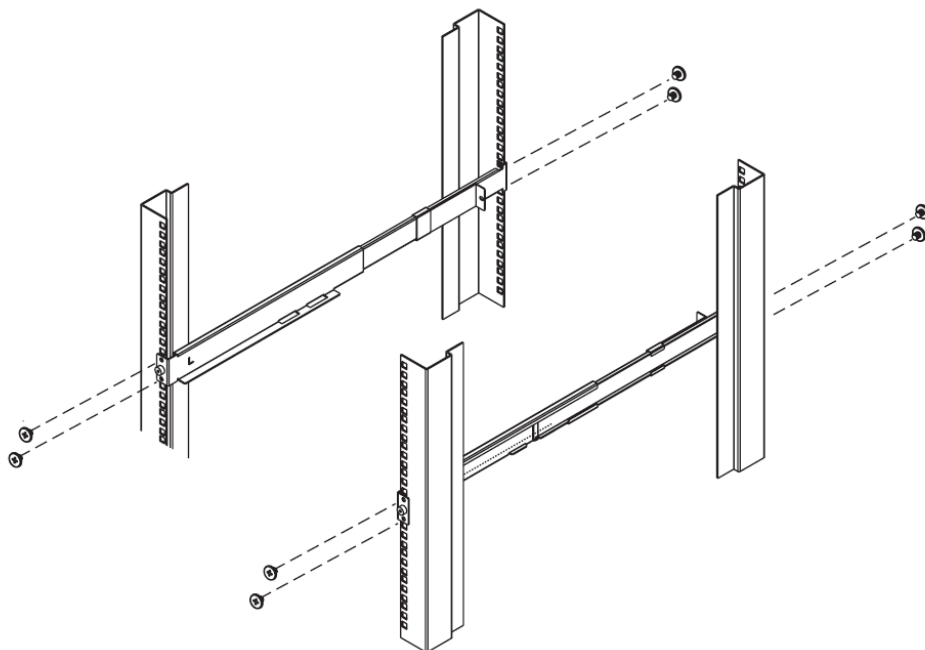
1. KL1116 は、本体に標準ラックマウントキットが取り付けられた状態で出荷されています。イージーセットアップラックマウントキットを使用する前に、本体側 標準レールを取り外してください。外したネジとレールは標準レールキットを使用する際に必要になるので、保管しておいてください。



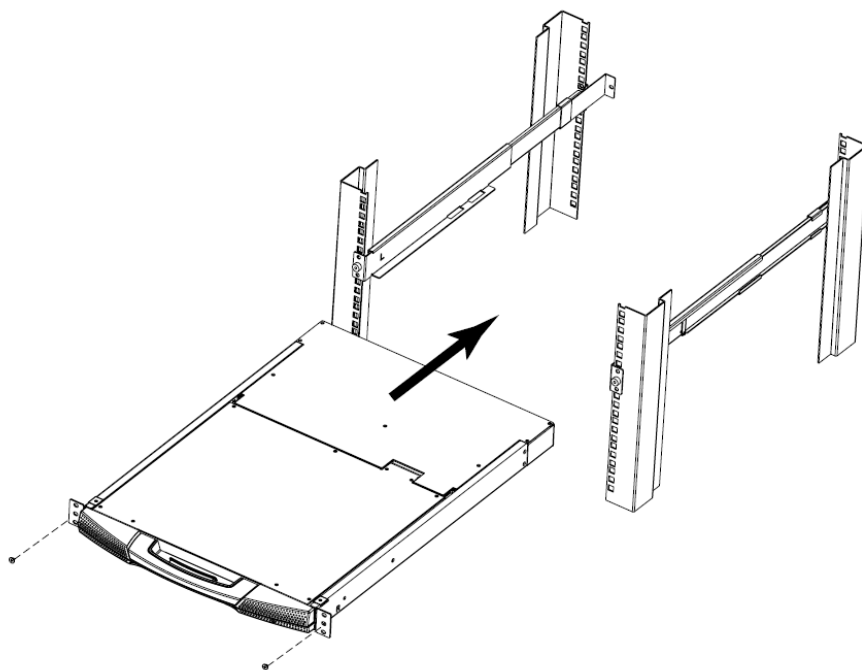
2. 同梱品箱に収められているイージーセットアップラックマウントキットを取り出し、レールの左右前後を確認してください。



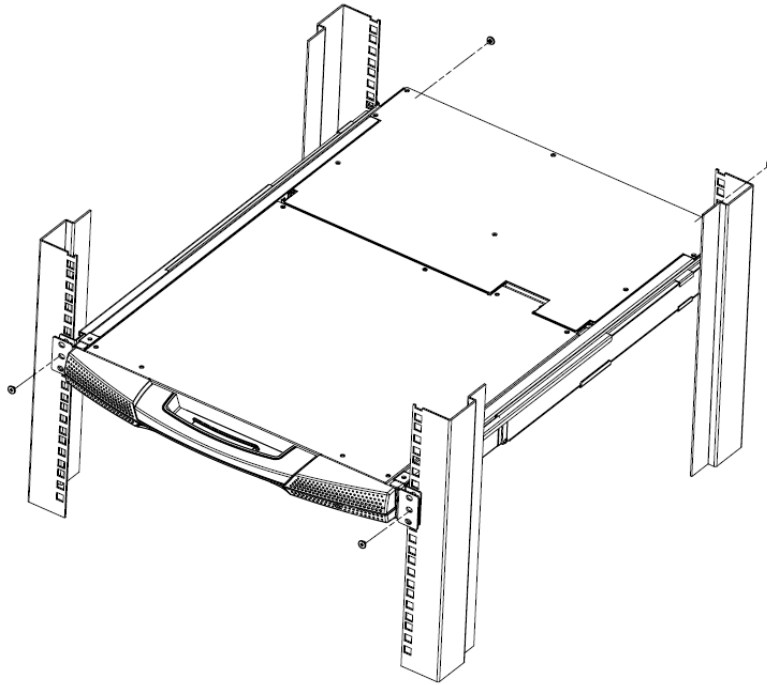
- a) イージーセットアップラックマウントキットは、レールのみを先にラックへ取り付けます。はじめにフロント側タブをラックにネジ止めしてください。
- b) サイドバーを調整しラックの支柱に合わせ、リア側タブをラックにネジ止めしてください。



3. サポートフリンジに支えられるようにしながら、KL1116 をラックのフロント側からスライドさせていきます。フロントタブが重なる位置まで押し入れたら、ネジ止めしてください。(ネジの本締めは次の手順で行ってください)



4. 本体固定用フリンジをスライドさせ、タブが製品リアパネルに接触するように調整し、ネジ止めしてください。取付位置に問題がなければ、4ヶ所のネジを本締めしてください。



5. LCDパネル/キーボードパネルを引き出してみ、問題なくオペレーションが行えることを確認してください。
6. 最後にすべてのネジがしっかりと止められていることを再確認してください。

ホットキー・OSD 専用起動キー

ホットキーモードと OSD がそれぞれ簡単に起動できるように、以下のような2つの専用キーがキーボードパネルに設けてありますので、ご利用ください。



製品仕様

機能		KL1116
コンピュータ接続数	ダイレクト接続	16
	最大(デイジーチェーン)	512
コンソール接続数		1
セカンドコンソール		1
コンピュータ側対応 インターフェース	キーボード	PS/2
	マウス	
セカンドコンソール側 対応インターフェース	キーボード	PS/2
	マウス	
ポート選択方法		OSD、ホットキー、プッシュボタン
コンピュータ側コネクタ	キーボード	SPHD(イエロー)メス×16
	マウス	
	モニタ	
セカンドコンソール側 コネクタ	キーボード	ミニ DIN6 ピンメス×1
	マウス	ミニ DIN6 ピンメス×1
	モニタ	D-Sub15 ピンメス×1
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ×1
	ポート選択	プッシュボタン×16
	電源	ロッカースイッチ×1
	LCD OSD	プッシュボタン×4
	ファームウェア アップグレード	スライドスイッチ×1
デイジーチェーンポート	OUT	DB-25 ピンオス×1
ファームウェアアップグレードポート		RJ11×1
電源ソケット		3 極 AC 電源ソケット×1
LED	オンライン	グリーン×1
	ポート選択	オレンジ×1
	電源	ブルー×1
	Num Lock	グリーン×1
	Caps Lock	グリーン×1
	Scroll Lock	グリーン×1

(表は次のページに続きます)

機能		KL1116
キーボード・マウスエミュレーション		PS/2
スキャンインターバル		1~255 秒(ユーザー設定)/5 秒(デフォルト)
電源仕様		AC100V~240V 50Hz/60Hz
消費電力		24W
VGA 解像度		最大 1,280×1,024@75Hz DDC2B 準拠
動作環境	動作温度	0~40℃
	保管温度	-20~60℃
	湿度	0~80%RH、結露なきこと
ケース材料		メタル
重量		17.1Kg
サイズ(W×D×H)		480×680×44mm
同梱品		2L-5702P(1.8m)ケーブル×2 電源ケーブル×1 ファームウェアアップグレードケーブル×1 イージーセットアップラックマウントキット (ショート or ロング) クイックスタートガイド×1 ユーザーマニュアル×1
対応 KVM ケーブル		《PS/2KVM ケーブル》 2L-5201P(1.2m) 2L-5202P(1.8m) 2L-5702P(1.8m) 2L-5203P(3m) 2L-5206P(6m) 2L-5210P(10m) 《USBKVM ケーブル》 2L-5202UP(1.8m) 2L-5203UP(3m) 2L-5206UP(6m) * 注意: 標準で PS/2 ケーブル 2L-5702P×2 が付属しています。

(表は次のページに続きます)

機能	KL1116
デイジーチェーン対応製品	KH0116
デイジーチェーン用ケーブル	2L-1700(0.6m) 2L-1701(1.8m) 2L-1703(3m) 2L-1705(5m) 2L-1715(15m)
旧 SUN システム専用ケーブル(13W3+ミニ DIN8 ピン)	CV-130A(1.8m)
新 SUN システム専用ケーブル(D-SUB15 ピン+USB)	CV-131A(1.8m)
MAC 用ケーブル	《PS/2KVM ケーブル》+UC-100KMA
PS/2 エミュレーター	《PS/2KVM ケーブル》+CV-100KM

トラブルシューティング

現象	対処法
外付モニタにゴーストが発生する。	外付モニタと KL1116 間の距離が離れすぎている可能性があります。VGA ケーブルの最大長が 20m(もしくはそれ以下)にする必要があります。短めの VGA ケーブルに交換してみてください。